

## ウラジオストク日露大競馬会, 1909年(4)

立川健治



立川健治 (たちかわ けんじ)

1950年佐賀県生まれ、京都大学文学部卒業。富山大学名誉教授。競馬史の著作として『文明開化に馬券は舞う』(2008年、2009年度JRA賞馬事文化賞)、『地方競馬の戦後史』(2012年)、『馬券黙許時代』第一部(2024年4月刊行予定、3書ともに世織書房)。現在、日本近代競馬史研究に従事、メールマガジン「もきち倶楽部」(週刊)で日露戦後から明治末年までの競馬史を「馬券黙許時代」と題して連載中。

明治42(1909)年9月26日朝、100余人の渡航者が大阪商船会社の定期船鳳山丸でウラジオストクから敦賀港に到着した。翌27日、各新聞は、その帰国時の様子を、何れも「意気消沈」、なかには船賃も払えず無賃で乗船した者、宿料を支払うことができず「付馬(取立て役)」とともに帰国した者などで無惨を極めている、今回渡航した約300人のなかで損をしなかった者は10人内外であるなどと報じた<sup>1)</sup>。

同じ鳳山丸で帰国した京浜競馬倶楽部(川崎競馬場)理事で岐阜県選出衆議院議員の佐々木文一は、「満州視察の途次同地に立寄り其実況を目撃」した、というより主要な目的は「満州視察」よりはウラジオストク競馬観戦だったが、「元金の倍以上に懐を肥やした者」がないわけではないが、大部分は収支トントンかそれ以上の失敗者だとして、渡航者約300人が「結局6万円の正貨」を「浦塩に置土産」したと思われると語った<sup>2)</sup>。そして『万朝報』は、他の渡航者の談をもとにしたものだろうが、安田伊左衛門が持馬のスイテンが全勝したにもかかわらず「馬券を買ったために結局大失敗」、深川洲崎遊郭の甲子楼主金山吉五郎が約2万円、吉原河内楼主安藤権三郎が1万5千円、千葉県の香取保、横浜の小幡兼広(医者)、東京ジョッキー倶楽部理事榎田吉一郎等の馬主、その他が何れも「強かの失敗」、毎夕新聞社主の木村政次郎だけが少し「懐を暖かえた」として、渡航者のウラジオストクへの「置土産」は15万円にのぼると報じた<sup>3)</sup>。3,000円を持って渡航した安田伊左衛門は、30年近くたった後に、「私の馬が毎日勝利を得た為に、馬券に於ても私は比較的勝利を得て居ったけれども、他の馬に於て盛んに馬券を買ったが為に悉く失敗に終わって、持って行った金と浦塩で得た賞金までも使ってしまった、甚だ馬に対しては申し訳なかったが、敦賀に着いた時には、日本の金で僅かに

6,70円)しか「懐に残って」いなかったと回想<sup>4)</sup>、『万朝報』の記事を裏付けていた。また八百長に引っかけた「裸になった」者<sup>5)</sup>、あるいは八百長を仕組んだが失敗して大損を被った者<sup>6)</sup>、そして厩舎関係者も含めて、渡航者のなかにはウラジオストクの妓楼、料理屋に通い、かなりの散財をした者もいたようである<sup>7)</sup>。

このように持参した資金を使い果たして帰国した者が多かったとの情報を受けて、描かれたのが、図1、図2のポンチ、漫画である。

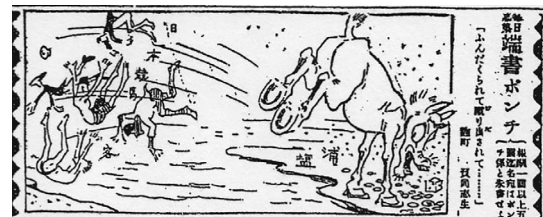


図1. 「ふんだくられて蹴り飛ばされて……」  
麴町 負同志生『万朝報』明治42年9月30日



図2. 「競馬狂の失敗」  
(応募漫画) 石田生『時事新報』明治42年9月30日  
浦塩くんだりからついて来たんだ逃さないようにしろ  
汽船会社 計算書  
合点だ  
旅館 計算書  
こんなになろうとは予期しなかった

一方この開催の思い出を懐かしい限りと語る者もいた。騎手として参加した二本柳省三（後に日本中央競馬会調教師）は、30 数年後、「競馬が一番最悪な時代に当面した時の出来事だけに、私のような半生を競馬に捧げてしまったものにとっては却々印象の深い遠征記で、昔を語る時にはいろいろな思い出の中から今でもはっきりと当時の事が浮び出て来て懐かしい限りである」と回想した<sup>8)</sup>。

そして遠征馬 58 頭の帰国であった。馬主たちは、9 月 10 日付で検疫港でない敦賀港への特例での上陸をウラジオストク領事館に請願、領事代理花岡止郎は、必要であるならばウラジオストク側の獣医の健康証明にウラジオストク領事館の反訳証明を付すので認めてもらいたいという含みで、この請願を本国に打診したが<sup>9)</sup>、農商務省は、獣疫検疫規則第 2 条により検疫港（横浜港、神戸港、長崎港、対馬・巖原港、下関港）以外には許可できないと却下した<sup>10)</sup>。これを受け馬主たちは、大阪商船会社と交渉、北韓清津航路（大阪、神戸、門司、清津）の感興丸を特にウラジオストクに寄港させ、10 月 1 日遠征馬たちを帰国の途につかせた<sup>11)</sup>。

9 月 23 日のウラジオストク競馬会開催の終了を受けて、ウラジオストク領事代理花岡止郎は、27 日付で、今後もウラジオストク競馬会に日本側も参加するという前提に立って、11 点に分けて開催全般の報告、改善点、また「卑見」を小村寿太郎外相宛に送付した<sup>12)</sup>。



図 3. 明治 42 年 9 月 27 日付在浦潮領事館事務代理領事館補花岡止郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に干し報告の件」  
 『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵

まず「1. 秋季競馬会概況」で、つぎのように、日本人観客は 1,000 名という「予定の人数を吸収できなかったが」、この開催が概ね成功だったと総括した。

秋季競馬会開会前に於ける人気は一般に引立ち居り本邦観客の参会するもの 1 千名と予定せられ、競馬会側よりは歓迎委員の推挙等ありしも、実際開会に当りては予定の人気を吸収し得ざりしと雖も、各国馬匹の参加せるを以て少なからざる好奇心を喚起し毎回相応の観客あり、本月 5 日より大体予定の通り競馬会を演了し尚 2 日間番外の競馬会を挙行し本月 23 日全く終了を告げたり。

そして、「6. 秋季競馬会に於ける馬券」で、「馬券買主」の成績に関して、つぎのように記した。

秋季競馬会に於ける馬券売上総額は概算 35 万ルーブルにして馬券売買に依り利益を得たるは馬匹改良共進会と勝馬の馬主たるヤンコフスキー、ダウン等数輩にして其他一般馬券買主は日露人共損失を被りたり、殊に露人側の買券者意外に少なく少々邦人間の同志撃取引の姿を呈し当地在留本邦人間にも多少買券を試みたるものあるも概して失敗に帰し、勝者は其得たる処を酒色に費やすか又は敗者のために強て借り取らる如き有様にして、結局本邦参加者にして利得せるものは一、二輩にして、多くは失敗に帰し、甚だしきは旅館の支払にも窮し、引馬をなして帰朝せるものあるは既述の如し。

既述の如しとは、その「2. 秋季競馬会と本邦人」で、つぎのように記していたことだった。

当地競馬会関係者は、曩に本邦より観客 1 千名以上を吸収せんと予想せしも、実際に於ては今回競馬会の為に来浦せる本邦人は騎手、馬丁合算し 3 百人程に過ぎず、中に就き紳士らしきものは僅かに 10 数名に過ぎずして、他は騎手、馬丁以外馬券売買を主眼として来浦せるものにして、競馬場付近の厩舎又は本邦旅舎等に宿泊し、当地を引揚ぐるに際し宿料の支払いさえ苦しみ引馬をなして帰朝せるもの少なからざりしと云う。

先に紹介したようなことが報告されているが、要するに、一言でいうと、渡航者は馬券売買を主眼とした者で、その成績は散々だったということであった。

この花岡の報告ではふれられていないが、レースの賞金は、5月協定締結の際に謳われた1着賞金最低500円から2,000円を大幅に下回る最低200ルーブル、最高650ルーブル、当時のレート、1ルーブルを1.032円で換算すると206円、671円。この額は、6月馬政局からの補助金を受けて行われた日本競馬会（目黒競馬場）春季開催の一般戦の1着賞金、内国産馬と抽籤内国産新馬が180円、内国産馬が150円、170円、220円、優勝戦が馬政局賞典を含めて内国産馬1000円、抽籤内国産新馬950円、各抽籤内国産馬650円<sup>13)</sup>と比較して、遠征費用を考えるならばそれほどのメリットがない額だった。また厩舎の設置、コースの改修などの費用も日本側の負担になっていたから、日本側が期待したような収入には遠く及ばず、遠征費用を上回って黒字になった馬主、厩舎関係者は少ないか、あるいはいなかったはずである。

花岡は「10. 競馬会側の意向として」で、つぎのように来年以降のウラジオストク競馬会の改善点をあげた。

当地競馬会は、遠来の馬主及馬券買客に対しては可成満足を与えんことを期し、馬匹の港内揚卸、輸送、厩舎設備及び本邦参加者等に対しては丁寧便宜を主としたるも、初回試験的挙なりしを以て諸般の設備に間然したる処もあるべく、現に入場料の高価、馬券売捌所設備の不充分及現金受払係の語学不通等不便に関し種々の批難ありたれば、将来は入場料の如き日本来会者に限り至極低廉となし、馬券売捌口を増し、日本の買券者に対する現金受払係の如きも日本人を雇う様になさんとし、入場料の如きも、最終2日の番外競争に際し無料入場券1千枚を配布したるに、馬券売場高は至て好成績を示したれば此点の如き後來特に一考を要する問題となし居れり。

さらに、「11. 卑見」として、「之を国交問題として観察するときは、当地競馬会の如き多数本邦人の参加するに際しては、須らく代表的日本人を渡浦せしめ、当地競馬会と本邦馬主等との交渉もダウンの如き無頼漢に依らず、適当なる人物を介して之を為すを適當とす」と述べ、日本国内でも「専ら本邦国内に於て極端

なる馬券発行より極端なる馬券禁止に転ずるの中間に在りて馬匹奨励法を講じ」とともに、「若し節制を失わざる程度に於て国際的に当地競馬会と合同舉行せんとせば、本邦側より秩序あり規律ある団体として信用ある人物を介して参加するを必要と信ず」と提言した。なおダウンとは、神戸在住の英国人シー・ダウンのこと、競馬会の日本側の代表者だった。

一方、「都合宜しければ浦塩競馬を引受け、馬券復活の時季まで、此の収入に依って命繋ぎしをなしたらば好都合ならむと」考えて、「大いに海外に生きる道を求め」ようとしていた安田伊左衛門は、その回想によれば、この開催、「浦塩に於て浦塩競馬クラブの代表者、浦塩商業団体の代表者、日本人の在住者の代表者、将校の代表者が私に向って、是非来年もあなたが日本の代表者になって、此の競馬を来年も開催するようにして貰いたい。斯ういう申し込みを非公式ではあったが、皆それぞれ申込まれたけれども」、「どうも色々露西亜人の空気に触れ、又日本人の特務勤務をして居る人々の注意を聞き、是等を総合すると、何だか薄気味悪く危険な感じがした為に、断然最初の計画を捨ててしまった」という<sup>14)</sup>。確かに、この明治42年当時、ウラジオストクの地元紙は、日本人への警戒をあまり、実際にスパイ容疑で逮捕されるものも100人以上<sup>15)</sup>、またこれより2年以上前のことになるが、明治40（1907）年3月ウラジオストクからシベリア鉄道でロンドンに出張した『東京朝日新聞』の記者杉村楚人冠も、「見るも聞くも恐ろしきことばかり、進むも退くもいやらしき所ばかり、やれやれ心細し」、「浦潮に留まること3日にして、僕はまさしく3年の寿命を縮めたり」と記していたほどだった<sup>16)</sup>。だが安田は別の個所では、市中見物をすると、初めての海外であったことで、「事々物々珍らしく」、「矢張り浦塩は相当に立派な街であった」、そしてウラジオストクは「要塞地内で、平素は日本人の出入を禁止されて居るとさえ聞いて居ったが」、「競馬の為には特に許されて居ると見え、何等の問題も起らず済んで居った」、とウラジオストクに対して好意的な印象をもったとも記していた<sup>17)</sup>。これに鑑みると、ウラジオストクでの今後の競馬会の開催に可能性を感じていたはずであった。ウラジオストク総領事代理矢野正雄は、翌明治43（1910）年4月、6月に予定されているウラジオストク春季競馬会開催に向けて、「馬券相場及入場料等は昨年通りにして本邦に於ける出馬者

の世話方は彼のダウンの外東京競馬会の有力者専ら奔走せる趣に有之候」と小村寿太郎外相宛に報告<sup>18)</sup>、この東京競馬会有力者とは安田伊左衛門を指していたことが、それを傍証している。おそらく安田が断念したのは、この6月の春季開催が、前年9月のものと異なって国内でまったく盛り上がりを見せず、馬政局から日本国内での出走を禁じられた横浜在住のJ.C. フレッチャーが明治41年輸入したアメリカ産サラブレッドのトライムファント、トニックを遠征させたが<sup>19)</sup>、その他の日本からの出走はなく、日本調教馬の遠征を前提にした番組が編成出来なくなったことが理由だったと思われる。安田が、「何だか薄気味悪く危険な感じがした」というのを断念の理由としてあげたのは、回想時のソビエト連邦時代のウラジオストク像が反映したことが大きかったと思われる。



図4. 明治43年4月13日付在浦潮総領事代理矢野正雄から外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に関する件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵

このようなウラジオストク競馬の結果を受けて、安田が中心的存在である東京競馬会は、「海外に生きる道を求め」ることは不可能と認識せざるをえなかった。残された道は、京浜競馬倶楽部（川崎競馬場）、日本競馬会（目黒競馬場）、東京ジョッキー倶楽部（板橋競馬場）と合同、東京競馬倶楽部を結成、池上競馬場を廃止して、補助金を受けて目黒競馬場で開催すること以外になかった。

註

1) たとえば、「競馬屋失敗（26日敦賀発）」『やまと新聞』明治42年9月27日、「浦塩競馬帰りの惨状…馬を引い

- て帰る」『東京二六新聞』明治42年9月27日、「競馬狂、馬を引いて帰る」『読売新聞』明治42年9月27日、「鳥港競馬失敗（敦賀）」『大阪朝日新聞』明治42年9月27日、「浦沙競馬の失敗」『大阪毎日新聞』明治42年9月27日。
- 2) 「日露合同浦塩競馬雑観 日本は馬劣り騎手優る 渡航者は殆ど皆失敗 浦塩に6万円の置土産」『時事新報』明治42年9月27日。
- 3) 「置土産15万円」『万朝報』明治42年9月28日。
- 4) 安田伊左衛門「競馬夜話」長森貞夫編『東京競馬会及東京競馬倶楽部史』第1巻、東京競馬倶楽部、昭和16年、所収、525頁。
- 5) 長森貞夫編纂『競馬と共に歩んだ安田伊左衛門翁伝』日本競馬会、昭和23年、所収、306頁。
- 6) 『競馬に生きた 鈴木信太郎』鈴謝会、昭和47年、70頁。
- 7) 明治42年9月27日付在浦潮領事館事務代理領事館補花岡正郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に干し報告の件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵、「置土産15万円」『万朝報』明治42年9月28日、前掲『競馬に生きた 鈴木信太郎』69頁。
- 8) 二本柳省三「ウラジオ遠征」『優駿』第2巻第3号、昭和17年3月。
- 9) 明治42年9月10日付在浦潮領事館事務代理領事館補花岡正郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「馬匹検疫に関する件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵。
- 10) 明治42年9月15日付農商務省農務局長下岡忠治より外務省通商局長萩原守一宛「農受第12444号」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵。
- 11) 明治42年9月27日付在浦潮領事館事務代理領事館補花岡正郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に干し報告の件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵。
- 12) 以下、この報告に関しては、同上。
- 13) 「目黒春季競馬（第1日）」『時事新報』明治42年6月12日、「目黒春季競馬（第2日）」『時事新報』明治42年6月13日、「目黒春季競馬（第3日）」『時事新報』明治42年6月14日。
- 14) 前掲安田『競馬夜話』524～525頁。
- 15) ゴーヤ・モルゲン／藤本和貴夫訳『ウラジオストク 日本人居留民の歴史 1860～1937年』東京堂出版、2016年、123～125頁。
- 16) 楚人冠杉村廣太郎『大英游記』有楽社、明治41年、4頁。
- 17) 前掲安田『競馬夜話』522～523頁。
- 18) 明治43年4月13日付在浦潮総領事代理矢野正雄から外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に関する件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵。
- 19) 「浦塩名馬の避寒」『横浜貿易新報』明治43年11月16日。

## 特別インタビュー記事

### うまからうまれるアート展 馬事文化財団と武蔵野美術大学の博学連携で行われた「UMARTs」展と馬とアートのこれから



杉浦幸子

武蔵野美術大学でミュージアムを中心にアート、デザインを活用した生涯学習支援を専門とされている杉浦幸子教授。日本中央競馬会に在籍されたご縁から、2013年から2019年まで馬事文化財団との博学連携による「UMARTs うまからうまれるアート」展を企画・実施。その実現までの道のり、若い作家の方々の作品紹介、馬とアートのこれからについて、武蔵野美術大学研究室にてお話を伺いました。

#### JRA 在籍時に感じた競馬の魅力と出会った方々とのご縁

日本中央競馬会には4年ほど在籍させていただきました。入会1年目は競馬場やウインズでお客様の熱気をじかに感じる事ができ、2年目からは秘書室だったこともあり貴賓室から現場まで色々なところを見せていただきました。わずか4年間でしたが、競馬のさまざまな側面から馬に触れることをデザインすることに繋がる濃い経験でした。

秘書室では、渡邊五郎理事長の秘書を務めました。とても文化芸術に造詣が深い粋な方で、私の上司だった秘書役の畑山光伸さんと一緒に歌舞伎を観に行かせていただいたこともありました。私がアートについても一度勉強したいと、退職して海外の大学院に行くときにも、温かく送り出してくださり大変有難かったです。

その後、2012年に武蔵野美術大学の准教授になった折に馬事文化財団と再びご縁ができて、博学連携が始まったのが「UMARTs」でした。

#### 博学連携で始まった

#### 「UMARTs 2013 うまからうまれる 15 のアート」

馬というのは競馬か乗馬のイメージがほとんどで、私の印象では競馬8割、乗馬2割でしょうか。馬をもつ

杉浦幸子（すぎうら さちこ）

武蔵野美術大学芸術文化学科教授。お茶の水女子大学文教育学部哲学科美学美術史専攻卒業。日本中央競馬会を経て、ミュージアムやアートの教育・鑑賞プログラムのデザインとマネジメントの道へ。現在は公益財団法人馬事文化財団理事（非常勤）、公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル監事（非常勤）も務める。2022年夏に日本経済新聞「美の十選」で「ウマアート」をテーマに全10回の記事を連載。

と違う目からも捉えてみたい。その時は馬事文化のことをそれほど知っていたの提案ではなかったのですが、馬をテーマにした作品を美大の学生に新作で作ってもらって、それを馬の博物館で展示するというプロジェクトで、最初は一回きりの予定でした。

うまからうまれるアート展  
UMARTs  
2015  
11.1 sun. - 12.5 sat.

日本画  
Japanese Painting  
油絵  
Oil Painting  
版画  
Printmaking  
彫刻  
Sculpture  
金工  
Metalwork  
木工  
Woodwork  
陶磁  
Ceramic  
ガラス  
Glassmaking  
テキスタイル  
Textile

馬の博物館  
EQUUS MUSEUM

開館時間：10時～16時30分（入館は15時まで） 休館日：月曜日（祝日は除く）  
入場料：一般200円 小学生100円（小学生以下は無料）  
観覧券（観覧券は別途販売） 小学生以下（休館日を除く）は無料  
注：馬の博物館（公益財団法人馬事文化財団） 共催：武蔵野美術大学芸術文化学科

写真1. 2015年開催の「UMARTs 2015 うまからうまれるアート展」パンフレット表紙

武蔵野美術大学にはいろいろな学科がありまして、いわゆる美術工芸系でいくと日本画、油絵、彫刻、版画。工芸の方が陶磁、ガラス、金工、木工、テキスタイル。当時は映像もあって、最初は5学科の先生にお願いしてアーティストを推薦してもらいました。

大学院生か卒業してすぐの若いアーティストは、基本的に制作費が自己負担なので、馬事文化財団から制作費の補助があるのは有難かったですし、若手は自分で展示する機会はなかなか持てないので、色々な人に見てもらえるように、私たち芸術文化学科の学生が展覧会にして広報やワークショップもするということになりました。

### 馬から何をインプットしてアウトプットするか

私のデザインとしては単に馬を観て綺麗だねではなくて、馬に乗ってみる、触ってみる、そして馬を見る。それも競馬で見たりとか。そして馬を食す。アーティストが馬を五感で感じ取ったら、何をインプットして、何をアウトプットするのかということに興味がありました。

まずは展示会場となる馬の博物館を見学。常設展、企画展だけでなく、当時の馬の博物館学芸部長の末崎さんに、特別に収蔵庫にも入れていただいて、これだけ古今東西、古代から現代まで馬にインスパイアされた作品があるというのを見せていただきました。坂本繁二郎さんの晩年の作品《月光》も所蔵されていて、それも展示されているのではなくて、収蔵庫の箱から出してきてくださったときには、油絵学科の生徒たちはわーっと感動していました。馬房見学や乗馬体験もしました。

続いて東京競馬場ではパドック、競馬、検量室のあたりにも入れていただきました。地下馬道では競馬に行くときの馬と帰ってくる時の馬がぜんぜん違うのを感じました。誘導馬が来てくれて撫でさせてもらったり、JRA 競馬博物館も見学しました。

展覧会開催に向けて、アーティスト、馬の博物館の皆さん、プロジェクトチーム、学生が集まって作品の進捗状況や展示についての方向性を話し合ったり、懇親会では馬も食しました。最初は可愛いし食べられないと思っていたけど、命をいただくって有難い、美味しいといって食していた人もいました。

2013年初回は秋の展覧会で、半年間の制作期間を渡せました。ぎりぎりまで何が出てくるか分からなくて、

出てきたものを急速に展覧会場に合わせてレイアウトするという綱渡りでしたが、驚くほどいろいろな表現が出てきました。

### 作品紹介

①小倉志都香 OGURA Shizuka (写真2)

《勝負服のブローチ》Brooch of Racing Colours

ガラス 300 mm × 500 mm

作家コメント「勝負服は、競馬場でジョッキーが着るレース服です。競走馬の馬主によってデザインが異なります。競馬ファンの父の話聞き、馬にはそれぞれドラマがあり、人によって好きな馬が違うことを知りました。自分にとって特別な馬の勝負服をアイコンとして身につけ、競馬場で応援している馬をアピールしたり、家で眺めて思い出に浸ることができる作品です」  
杉浦評「ガラス造形を学ぶ学生が、馬主さんの勝負服をガラスのブローチにしました。馬主さんの服色を使う許可をとるのに馬事文化財団の方に大変お世話になり、そのおかげで他にはないユニークな作品が生まれました」

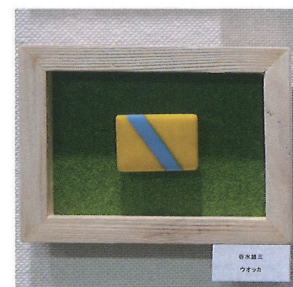
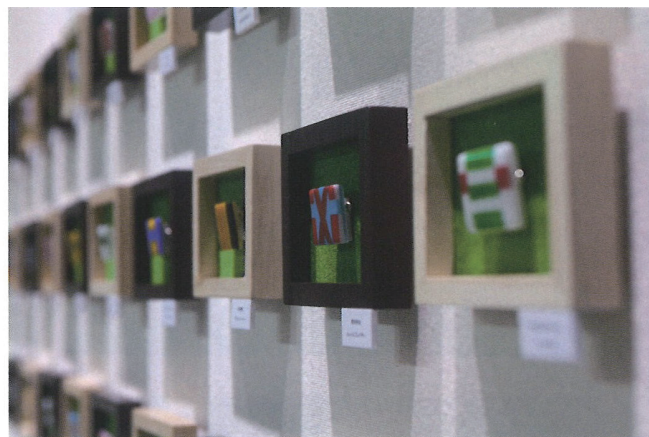


写真2. 小倉志都香

## ②中田麻衣子 NAKADA Maiko (写真3)

## 《じっと》fixedly

木版画 水性木版 上915 mm × 910 mm, 下915 mm 1210 mm

作家コメント「その瞳に私が映ったのはほんの一瞬。目が合ったと思ったそのとき、周囲の音が消え、時が止まった。すべてを見透かされているかのような恐怖が私の中を駆け抜けた。その後やってきたのは優しい空気。様々な感情と流れゆく空気を感じてもらえればと思う」

杉浦評「中田さんはいま茅野市美術館の学芸員をしていて、版画作家でもあります。彼女は馬と触れ合ったときに、馬の全体像ではなくて目にグッと惹き込まれた。その視点の置き方が自分にはなくて素晴らしいなと感じました」

## ③辻 蔵人 TSUJI Kurodo (写真4)

## 《ソラウマ》sorauma

鉄 2160 mm × 2220 mm, 1700 mm × 1650 mm

※上は UMARTs 2013 下は UMARTs 2014 の展示風景  
作家コメント「車や色々な機械のパーツを使って親子



写真3. 中田麻衣子

の馬を作りました。主な素材は鉄とプラスチックを使っています。作品をよく見てみると見なれた物が使われているかもしれません」

杉浦評「彫刻学科から推薦された作家ですが、これ全部廃材なんです。工業廃材を彼が独自のルートで入手して馬の親子を作りました。JRA 競馬博物館に巡回することになって、馬の博物館では白だったので、少し変えたいとオレンジにしました。とても評判が良かったので、しばらく博物館前に展示を続けてくださいました」

## ④齋藤菜菜恵 SAITO Nanae (写真5)

## 《朧》dim

日本画 絹本着彩 1167 mm × 909 mm

作家コメント「日本の在来種の野間馬を描きました。世界に自分と同じ分類をされるものが80頭しか居ない、という状況がどんなものか私には分かりませんが、そこには儂さや朧な空気と同時に、どこか誇らしさみたいなものも漂っているような気がしました」

杉浦評「馬事文化財団では日本には在来馬がいて本当

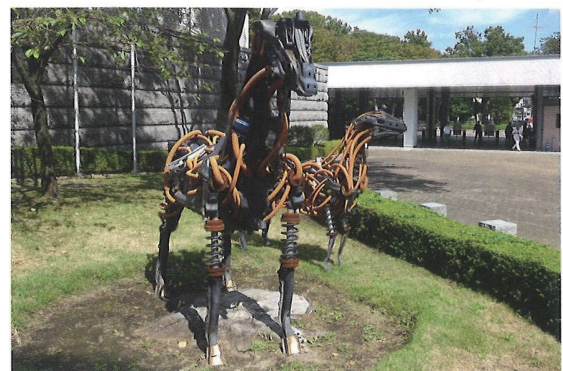


写真4. 辻 蔵人



写真5. 齋藤菜菜恵

に希少な存在というお話も伺いました。自分の仲間が80頭しかない世界ってどう見えるんだろうと想像して描いたそうですが、野間馬にぐーっと近づいてお鼻が大きくなる。ちょっとポップな構図でしょ。そこまで寄って見たときに彼女のビジョンなんですよ。ぼやーとした様子を朦朧体のように描いています」  
 (日本馬事協会資料によると、2010年に飼育頭数80頭だった野間馬は2024年1月現在54頭となっている)

⑤猪上亜美 INOUE Ami (写真6)

《猿駒曳図屏風》a horse with a monkey

日本画 二曲一隻、紙本着彩 860 mm × 1200 mm

作家コメント「昔から日本では、猿は厩の守り神であるという信仰があり、厩で猿を飼う風習があったそうです。馬と猿には深い関わりがあるとされ、絵馬、根付や古銭のデザインにもなっています。その文化を元に、馬と猿のさりげない一場面をとらえて、表現したいと思いました。

杉浦評「馬房には猿や猫など、馬と一緒に動物がいるというお話をベースに、古典とモダンが出会いました。



写真6. 猪上亜美

彼女は屏風という形式が絵画にどのような影響を与えるかということの研究していたので、ひとつ折の屏風に馬と猿をレイアウトして描いてみることにトライしました」

⑥池上太郎 IKEGAMI Taro (写真7)

《みつけただけじゃない》something beyond discovery

ガラス 120 mm × 120 mm × 500 mm

作家コメント「人と馬との歴史の中で両者の関わりをより強固なものにするきっかけとしてハミという馬具の発明があると知りました。そして、自分が扱うガラスという素材と人との関係に共通するものを感じ、ハミを今回のモチーフとしました。そのもの自体の存在以上に様々な作用を持つことに羨ましさを感じながら制作しました」

杉浦評「馬事文化財団ですごい古代のハミを見せてもらい、馬の歯がない所にハミが入ることによって、人間と馬が交信できるようになったという話を伺いました。池上さんはハミを初めて知って、自分が扱う素材で作ってみようと吹きガラスで作りました。具象的で

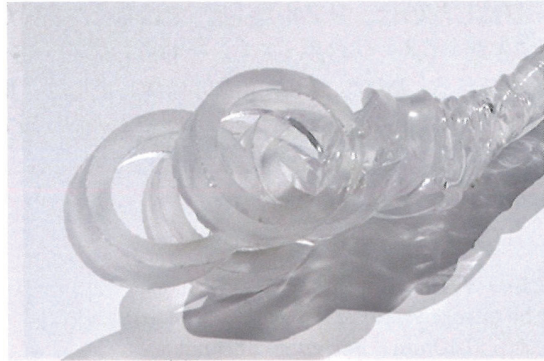
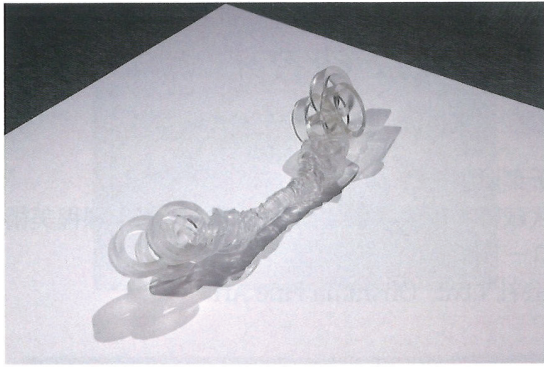


写真7. 池上太郎

はないけれど、彼がハミからインスパイアされて出てきた形がこれで、透明なガラスでハミを表現したかったと言っていました」

#### 会期中にはワークショップも行われました

これから馬文化を知ってほしい子どもから大人まで、アートに触れて、馬文化の魅力を体験してほしいと、各種ワークショップも行いました。

#### UMARTs 2017

パブリックプログラム『ウマれて つながる』

#### 「進んで知ろう！馬博すごろく」(写真8)

誰でも親しみのある「すごろく」を通して、馬の博物館や馬についてより興味を持ってもらいたいと、まずは駒となる馬を制作してアートに触れて、駒に愛着を持ってもらうことから始めました。すごろくのマス目には馬に関するクイズなどを設け、馬の知識を楽しく覚えてもらう仕掛けを作りました。すごろくは東京競馬場をモチーフにした立体的なものにし、駒である



写真8. 進んで知ろう！馬博すごろく

馬が競馬場を走るようなイメージで制作しました。

「つくって、かぶって、おしらさま！」

(写真9, 写真10)

東北の民話である「おしら様」の世界観に深く浸ってもらえるように、馬の博物館内にある岩手県遠野をイメージした「曲り家」の一室でおしら様の読み聞かせを行いました。その後、白い厚紙を使いおしら様の分身である馬の頭部を作りました。おしら様は神様であることから、絹糸や和紙などの素材選びにとってもこだわり、見て、触って、感じる体験ができるようブラッシュアップを重ねました。最後は作った馬の頭をかぶり、おしら様の気分になって曲り家で写真撮影を行いました。

#### これからも UMARTs を広く知ってもらうために ～夢は競馬場での展示や巡回

一回きりと思って始めたプロジェクトでしたが、2013年馬の博物館の翌年に JRA 競馬博物館へ巡回して、2年連続という形が作られて、それが2019年まで続きました。

芸術文化学科は学芸員を養成することがミッションの1つなので、UMARTs プロジェクトで展覧会をつくることで、作家の作品への思いや、来場して見ていただくための広報、参加することで学ぶワークショップなど、学芸員が担当する生きた現場を実際に体験、学ぶことができました。そして多くの学生が馬の美しさ、繊細さにも魅了されていたと思います。

このように、馬の魅力をインプットした作家が非常にユニークな思考や視点をもって作品を作り出すこと



写真9. つくって、かぶって、おしらさま！



写真10.

が分かったので、今後も馬のアートを集めた展覧会が出来たらいいなと思います。馬の博物館、JRA 競馬博物館には、馬や競馬に関心がある方が主に見に来てくださいますが、もっと色々な人に馬のアートを知ってもらうために、競馬場内のオープンな空間に展示したり、競馬場巡回が出来たらというのが夢です。競馬場の内馬場や乗馬苑のようなところで子どもたちとうちの学生がアートワークショップなんてできたら面白いなという思いもあります。

### 赤ちゃんにも馬とアートに触れてほしい


また、私はいま乳児とアートをつなぐ研究をしていて、全国の美術館と行っている12カ月までの赤ちゃんとは作品を鑑賞する「赤ちゃんとびじゅつかん」というプログラムをUMARTs 2019でも行いました。人生最初期の学びをしている赤ちゃんにアートの刺激をということで、作品を見たことは忘れてしまっても、何かしら記憶に残っている可能性を信じています。赤ちゃんのときに何に出会うかはとても大切で、その中に馬がいたらいいなと。走っている馬を見るだけでもかっ



写真11. UMARTs 2019にてJRA 競馬博物館で実施した0歳児のための鑑賞プログラム「赤ちゃんとUMARTs」

こいいし、馬に触ると温かさを感じることができる。さらに馬アートを見たら、赤ちゃんが様々な刺激を吸収してくれると思いますし、馬を導入として命の大切さとか共生といったところに繋がるといいなと思います。競馬場で「赤ちゃんとUMARTs」できたら素晴らしいですね。

(取材・文／永井富美子)

 研究報告

## シンチグラフィー実施時の放射線防護 (日本競走馬協会競走馬生産育成研究助成 事業報告)

山田一孝  
麻布大学獣医学部

### はじめに

われわれ臨床獣医師は、日々放射線の職業被曝と向き合いながら診療に臨んでいる。日本人は「放射線」という言葉に対して敏感な国民性であるにもかかわらず、放射線防護に対する意識は決して高いとはいえない。日常行っている X 線検査で獣医師に急性放射線障害が発生することはあり得ない。一方で、晩発性放射線障害である「発癌」は、数十年の潜伏期間を経て発症する。つまり、若い時に受けた被曝が働き盛りの中年獣医師に癌を発症させる可能性は否定できない。そのためには、今の放射線防護が重要である。

馬臨床に Digital Radiography が普及し、フィルム現像の手間や撮影条件の失宜による撮り直しがなくなったことで、X 線検査が手軽に実施できるようになった。それにとともに、馬臨床における X 線撮影枚数は飛躍的に増加した。さらに、近く日本にシンチグラフィーが導入されれば、獣医師の職業被曝は一層深刻な問題になるかもしれない。将来の日本で「馬臨床獣医師には癌の発生が多い」ということは絶対にあってはならない。

そこで、海外の馬診療施設で研修し、シンチグラフィー実施時の放射線防護について情報収集を行った。

### シンチグラフィーとは

シンチグラフィーとは、放射性同位元素 ( $^{99m}\text{Tc}$ ) を体内に入れ、放射性同位元素から放出される  $\gamma$  線を  $\gamma$  カメラで捉えて画像化する検査である。X 線検査は形態観察が目的であるのに対し、シンチグラフィーは放射性同位元素の分布、つまり血流や代謝を反映するの

山田一孝 (やまだ かずたか)

麻布大学獣医学部教授。帯広畜産大学卒業。岐阜大学大学院連合獣医学研究科博士課程修了。2008 年帯広畜産大学教授。2016 年から現職。日本ウマ科学会 Journal of Equine Science 編集委員。



で、機能画像とよばれる。馬に対するシンチグラフィーは、跛行の原因部位を特定する目的で実施される。海外では 1979 年に馬での最初の報告がある歴史の長い検査である。検査に際し、全身麻酔を必要としないため麻酔のリスクや覚醒時の転倒事故がない、馬にとって安全な検査である (図 1)。

研修期間中に経験した症例を図 2 に示す。症例は、騎乗を嫌がるという稟告の乗用馬で、第 4 頸椎に放射性同位元素の集積が認められた。側方向の X 線撮影では異常は認められなかったが、シンチグラフィーの結果をもとに斜方向の撮影を行ったところ、横突起の骨折が確認された。この症例からわかるように、シンチグラフィーは骨病変の部位の特定に威力を発揮する。



図 1. シンチグラフィー風景

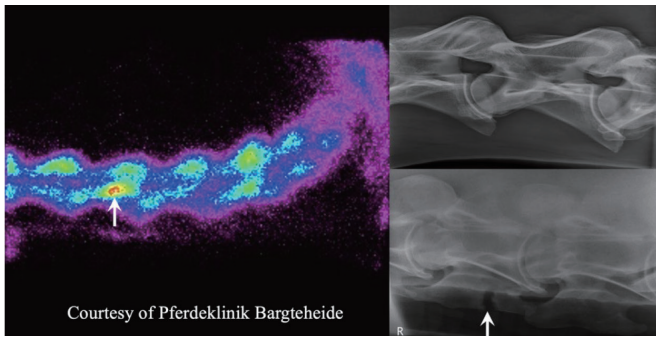


図2. シンチグラフィーが特に有用であった症例  
第4頸椎に放射性同位元素の集積が認められた(左写真, 矢印). 側方向のX線撮影では異常は認められなかったが(右上写真), シンチグラフィーの結果をもとに斜方向の撮影を行ったところ, 横突起の骨折が確認された(右下写真, 矢印).

### シンチグラフィー実施時の実効線量測定

#### 1) 研修先

ドイツの馬専門病院 Pferdeklinik Bargteheide でシンチグラフィーの手技を学ぶとともに筆者が受けた実効線量を計測した。この施設は、獣医師 18 名、テクニシャンおよびスタッフ 70 名で、年間診療頭数 5,000 件、手術件数 600 件、シンチグラフィー 500 件を実施している規模の大きい二次診療施設である。Pferdeklinik Bargteheide では、1996 年にシンチグラフィーを導入しており、既に 26 年の実績がある。

#### 2) 実効線量測定方法

実効線量の測定には半導体式電子ポケット線量計(マイドーズ, PDM-501, 日本レイテック)を筆者の基本部位と頭頸部にそれぞれ装着し、2つの線量計の値から不均等被曝時の実効線量を計算した。また、10分間隔のトレンドを、データ読取り装置(マイドーズリーダー, SDM-301C, 日本レイテック)で計測した。測定に先立ち、機器の校正(校正日 2023 年 1 月 16 日, 校正定数 1.00, 1.01)を実施した。

#### 3) シンチグラフィー症例と実効線量(表1)

2週間の研修期間中に 25 件の検査を経験した。火曜日の早朝にジェネレータが納品されるため、検査は放射能が高い火曜日に多く、金曜日と月曜日は検査数が少なく予定が組まれている。症例は全て乗用馬で、年齢は比較的高齢であった。1日目と2日目は、γカメラの後方で検査を見学していたので、実効線量は低かつ

た。実効線量は、検査日によるバラツキが大きく、これは線源である馬と筆者との距離に依存している。つまり、放射線防護にはシンチグラフィーにかかわる従事者の立ち位置が重要である。

#### 4) 2週間のシンチグラフィー件数と実効線量および52週間の予測値(表2)

2週間の合計実効線量は 205.5  $\mu\text{Sv}$  であった。このペースで検査を実施した場合、52週間の予測検査件数は 650 件、実効線量は 5,343  $\mu\text{Sv}$  つまり 5.3 mSv と計算される。日本の職業被曝限度(獣医療法施行規則)が 1 年間 50 mSv かつ 5 年間 100 mSv なので、このペースで 1 年間検査を実施したとしても職業被曝限度より低い。この程度の被曝で確定的影響による急性放射線障害は起こり得ないが、しきい値なし直線仮説による放射線障害を考慮して、被曝を最小限にすべく放射線防護の対策は必要である。

#### 5) シンチグラフィーが1件の日の実効線量のトレンド(図3)

この日のトレンドは、RI 調整中の被曝が 10 分間で 3  $\mu\text{Sv}$  と高かった。毎時に換算すると 18  $\mu\text{Sv/hr}$  となる。RI 調整の時間を短くするために、RI 調整にかかわる従事者は、コールド(放射性同位元素を含まない液体)での操作練習をして、短時間で調整が終了するようトレーニングを積むべきである。

シンチグラフィーは脊柱、骨盤の撮影の前に、軟部組織からの減衰を待つため、一旦馬房に戻す時間がある。その時間は被曝がほとんどなかった。また、この日のシンチグラフィーの前半は筆者が馬を保定している時間が長かったため実効線量は高かったが、後半は馬からの距離が遠かったため、実効線量は低かった。トレンドからわかるように検査中の被曝は一定ではなく、馬を保定すると実効線量は顕著に上昇した。しかし、実際の検査では保定は不可欠である。そこで、保定の時間を短くできるよう上手に鎮静をかける必要がある。

#### 6) シンチグラフィーを見学していた日の実効線量のトレンド(図4)

この日の検査件数は 5 件であったが、筆者は概ね  $\gamma$ カメラの後方で見学していた。実効線量は、10 分間

表1. シンチグラフィ―症例と実効線量 (2023年3月20日～31日)

	日	頭数	種	性	年齢	実効線量 ( $\mu\text{Sv}$ )
1	1日目 (月)	1	Holstein	雌	13	4.2
2	2日目 (火)	1	Oldenburg	去勢雄	6	9.5
3		2	German Sport Horse	去勢雄	7	
4		3	Hanoverian	去勢雄	21	
5		4	Westphalia	去勢雄	4	
6		5	Oldenburg	去勢雄	7	
7	3日目 (水)	1	Hanoverian	雌	7	45.1
8		2	Hanoverian	雌	8	
9		3	Islandic	去勢雄	6	
10		4	Hanoverian	雌	8	
11	4日目 (木)	1	Belgian Warmblood	去勢雄	8	27.3
12		2	Oldenburg	去勢雄	8	
13		3	Holstein	雌	12	
14	5日目 (金)	1	Trakehner	雌	16	15.6
15	6日目 (月)	1	Holstein	去勢雄	14	11.1
16	7日目 (火)	1	German Warmblood	雌	28	20.2
17		2	Danish Warmblood	去勢雄	5	
18		3	Danish Warmblood	雌	15	
19		4	Holstein	去勢雄	14	
20		5	Hanoverian	去勢雄	10	
21	8日目 (水)	1	German Sport Horse	雌	5	35.3
22		2	Hanoverian	雌	6	
23		3	KWPN	去勢雄	9	
24	9日目 (木)	1	Hanoverian	去勢雄	13	16.2
25	10日目 (金)	1	Holstein	雌	9	21.0

実効線量はバックグラウンドを含む

表2. 2週間のシンチグラフィ―件数と実効線量および52週間の予測値

	検査件数 (件)	実効線量 ( $\mu\text{Sv}$ )
2週間の合計	25	205.5
52週間の予測	650	5,343.0

実効線量はバックグラウンドを含む

で0.1～0.6  $\mu\text{Sv}$  で、毎時に換算すると1  $\mu\text{Sv/hr}$  程度であった。このことから、保定にかかわらない従事者は線源である馬から離れることで、被曝を低減できることがわかる。

#### 7) 移動日往路の実効線量のトレンド (図5)

羽田空港での手荷物検査時の線量はこのグラフの縦軸の2  $\mu\text{Sv}$  (筆者の実効線量ではないので、正確にはここだけ  $\mu\text{Gy}$  と表示するべき) を大きく超過している。機内での実効線量は、羽田からフランクフルトまでの国際線機内の方がフランクフルトからハンブルグまでの国内線機内よりも高かった。これは、国際線の飛行高度が国内線よりも高いためである。シンチグラフィ―の見学中の空間線量率 (1  $\mu\text{Sv/hr}$ ) は、国際線の機内と同程度であることがわかった。

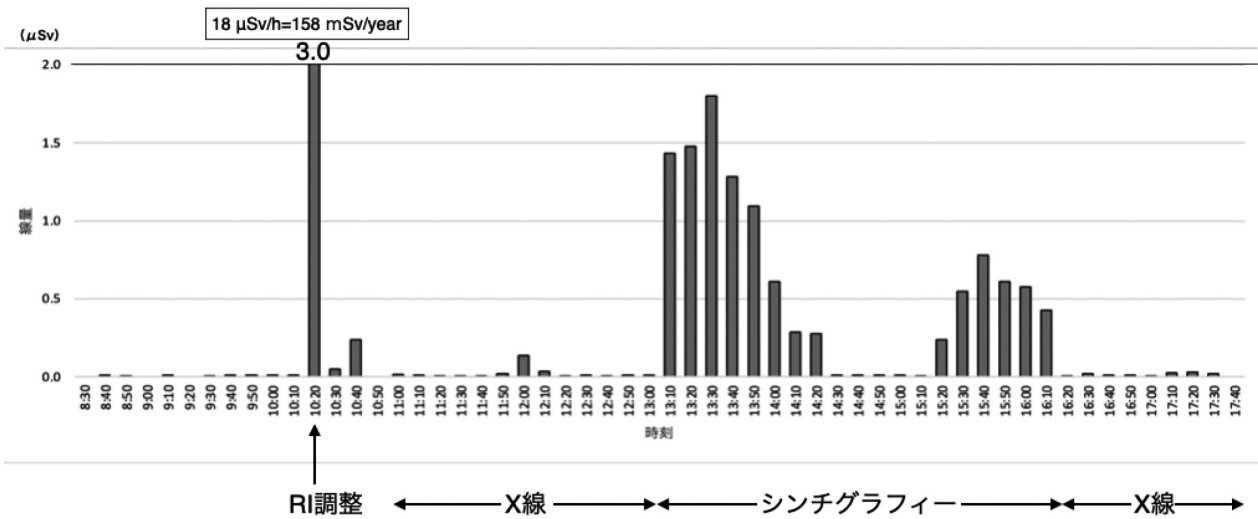


図3. シンチグラフィが1件の日の実効線量のトレンド (5日目)

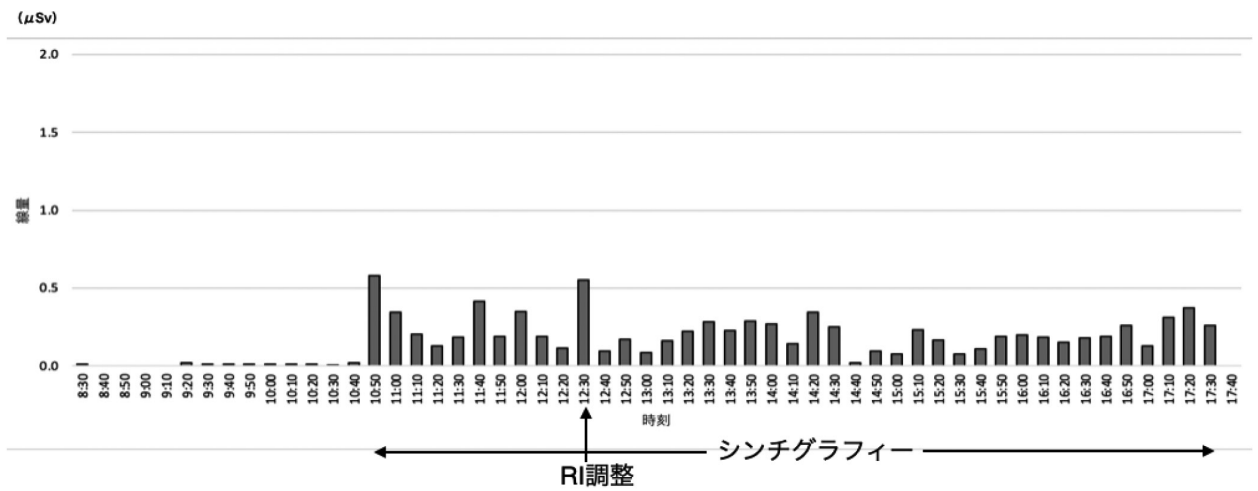


図4. シンチグラフィを見学していた日の実効線量のトレンド (2日目, 検査5件)

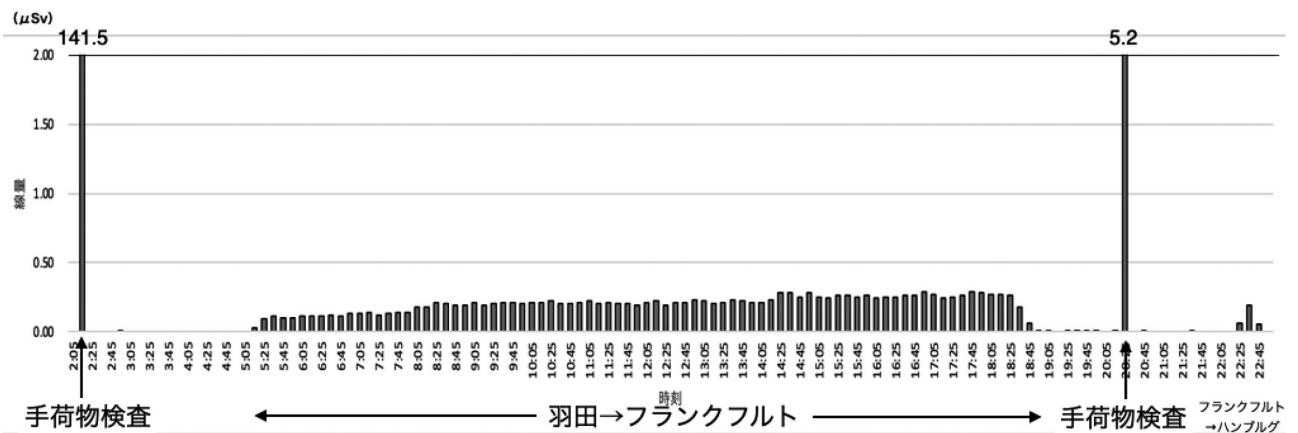


図5. 移動日往路の実効線量のトレンド

表 3. X線検査実施時とシンチグラフィ実施時の防護服の遮蔽率

	基本部位 ( $\mu\text{Sv}$ )	頭頸部 ( $\mu\text{Sv}$ )	遮蔽率
X線検査 (670分)	0.7	3.1	0.21
シンチグラフィ検査 (3,150分)	145.6	229.6	0.63

#### 8) X線検査実施時とシンチグラフィ実施時の防護服の遮蔽率 (表 3)

シンチグラフィ実施時の防護服の遮蔽効果はX線検査実施時よりも低かった。今回着用していた防護服は0.35 mm鉛厚であり、X線撮影時の散乱線の遮蔽には十分であったが、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ から放出される141 keVの $\gamma$ 線の遮蔽には不十分であったと考えられた。また、X線検査では体の正面方向からX線の被曝を受けるが、シンチグラフィでは背中や横からも $\gamma$ 線の被曝を受ける。防護服の鉛厚を厚くすることや、防護服の背面にも鉛を入れることは、機敏な動きが求められる馬の保定や $\gamma$ カメラの操作には現実的ではない。そのため、シンチグラフィ実施時には防護服による遮蔽を過信せず、検査時間を短くすることに注力するべきである。

#### まとめ

1. 立ち位置によって実効線量は大きく変化するため、保定にかかわらず従事者は線源である馬からの距離を確保する。
2. 保定時に実効線量は顕著に上昇するが、馬の保定は不可欠である。そこで、保定の時間を短くできるよう上手に鎮静をかけることが重要である。
3. RI調整時の被曝が大きいため、RI調整の時間をできる限り短くする。そのためには、RI調整にかかわる従事者は、コールドで操作の練習をする必要がある。
4. シンチグラフィ実施時の防護服による遮蔽効果はX線撮影時の遮蔽効果よりも低い。そのため、防護服による遮蔽を過信せず検査時間を短くすることに注力するべきである。

#### 結論

放射線防護の3原則（遮蔽、距離、時間）の特に時間の短縮を意識したシンチグラフィプロトコルの作成を提案する。

#### 謝辞

本稿の情報収集は、一般社団法人日本競走馬協会の2022年度競走馬生産育成研究助成事業「馬診療における放射線検査時の放射線防護に関する情報収集」の助成を受けて実施した。

Pferdeklinik Bargteheideのご厚意でシンチグラフィの研修を受けさせていただいた。研修の貴重な機会を与えていただいたDr. Werner Jahn, シンチグラフィの手技や読影の全てに懇切丁寧にご指導くださったDr. Sahra Sielaffに心から御礼申し上げます。私の滞在を快く受け入れてくださった獣医師、テクニシャン、スタッフ全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

Mit freundlicher Unterstützung der Pferdeklinik Bargteheide durfte ich an einem Fortbildungsprogramm zur Szintigrafie teilnehmen. Mein aufrichtiger Dank geht an Dr. Werner Jahn, der mir diese wertvolle Gelegenheit ermöglicht hat, sowie an Dr. Sahra Sielaff, die mich geduldig in allen Aspekten der Szintigrafie-Techniken und Befundung unterwiesen hat. Ich möchte auch den Tierärzten, Technikern und dem gesamten Personal danken, die mich freundlich während meines Aufenthalts aufgenommen haben.

## 「La Route du Poisson 2022」への 日本チーム参加

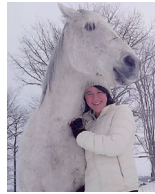
荒川由紀子<sup>1</sup>, Virginia Kouyoumdjian,  
岩間 敬<sup>2</sup>, 蛭川 徹<sup>3</sup>, 布施 勝<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 環境省

<sup>2</sup> (一社)馬搬振興会

<sup>3</sup> ノースポールステイブル

<sup>4</sup> (公社)全国乗馬倶楽部振興協会



荒川由紀子 (あらかわ ゆきこ)

令和6年1月現在、環境省在籍。麻布大学大学院動物応用科学科卒業。平成13年農林水産省入省。馬関係の業務としては、(独)家畜改良センター十勝牧場で重種馬の繁殖・育種・運動能力調査等を担当。その後、農林水産省畜産振興課での馬の改良増殖関連、競馬監督課での競馬関連等の行政を担当。プライベートでも馬が大好き。

### はじめに

2022年9月「La Route du Poisson (ルート・ドウ・ポワソン)」という重種馬の馬車競技イベントがフランスで行われ、日本からも初めてチームで参加しました。

「La Route du Poisson」は直訳すると「魚の道」。日本では若狭湾から京都までの「鯖街道」が有名ですが、かつて、フランス北端のブローニュ・シュル・メールの漁港からパリまで鮮度の良い魚を届けるために馬車がリレー方式で魚を運んでいました。1848年に鉄道が開通するまでの何百年もの間、漁港からパリまでの300kmの道のりは、15~20kmごとに「駅 (relais de poste)」が設けられ、この駅で馬を交代させながら、24時間以内に魚が届けられていたようです。

このような「歴史」と、馬車馬やそれに関わる人々への敬意を込めて、1991年、この「魚の道」を挽用馬の馬車で走るレースが始まり、2012年からしばらく中断していましたが、2021年に再開、2022年はヨーロッ

パを中心に各国から12チーム、約350頭の馬が参加しました(写真1, 2)。

### 重種馬, 挽用馬について

日本で重種馬・挽用馬(ドラフトホース)というと、北海道のばんえい競馬がイメージされ、あまりなじみがないと感じる方も多いかもしれません。しかし、かつては、農耕や馬搬等で重宝され、全国の農林業の発展などに大いに寄与し、現在も各地の祭りや催事では、重種馬が登場する場面があり、長く私たちの生活や文化に根付いた存在であったことが伺えます。その代表となる岩手県の「チャグチャグ馬コ」は、重種馬でのお祭りとしてとても有名です。また近年は、馬搬や馬



写真1. ルート・ドウ・ポワソンのパンフレット



写真2. 世界各国から12チーム、約350頭の馬が参加。参加者と馬の臨時キャンプも壮観

耕などの技術の伝承や観光地における馬車での利用など、重種馬を「はたらく馬」として活用していく活動も注目されつつあります。

また、我が国の重種馬は、主にフランス原産の「ペルシュロン種」や「ブルトン種」を基礎としており、現在も、(独)家畜改良センター十勝牧場では、これらの種の生産と種馬の供給をしていて、重種馬の世界は、フランスとも深いつながりがあります。

そのような背景もあり、今回、フランスの方々から馬を貸していただいたり、人馬ともに多大なご協力をいただき、日本のチームも一部ではありますがこのイベントに参加することができ、また、パリの凱旋門で「チャグチャグ馬コ」のパレードを披露することができました。

### 各種の競技

La Route du Poissonの主催者は、本イベントを通じて、①挽用馬（ドラフトホース）の大規模スポーツとしての継続、②風土と農村のプロモーション、③遺産

や文化の価値創出、④エコロジーな活動、⑤相違とハンディキャップの受入れ、⑥ノウハウと伝統の継承、⑦動物がより良く生きる取組み、を目指しています。このため、歴史的な馬車レースだけでなく、挽用馬が様々なシーンで活躍するために求められる要素について、多岐に亘る競技やイベントが行われ、競われることも興味深いポイントとなっています。

1日目は「騎乗での馬術競技」。音楽に合わせた馬場馬術の演技を挽用馬に騎乗して行います（写真3, 4）。

2日目は、「声による馬のコントロールテスト」と「1頭引きの馬搬テスト」。「声によるコントロールテスト」は、林の中の静かな環境の中で、主に声だけに従って馬がコースを正確に通過していくものです。「1頭引きの馬搬テスト」は、実際に伐採した木材を、車が通れる道まで運ぶ「馬搬」の力や技術を測る要素が高いテストです（写真5, 6, 7）。

3日目には、「4頭立て馬車競技」と「2頭立て重量牽引」。4頭立て馬車は、国際馬術連盟（FEI）が主催する馬車競技と同じですが、挽用馬のスピードに沿っ



写真3. 騎乗での馬術競技の様子



写真4. 騎乗での障害通過



写真5. 精鋭日本チーム！



写真6. 1頭引きの馬搬テストに参加する、岩間さん



写真7. 様々な課題をクリアしながら進んでいく競技会方式



写真 8. 4頭立て馬車競技



写真 9. 2頭立て重量牽引



写真 10. 2頭立ての伝統的なボート引き。  
ミュール（ロバと馬の交雑）も活躍

たものとなっています。2頭立て重量牽引は、それに徐々に人が乗り込んでいき、その牽引重量を競います（写真 8, 9）。

4日目は「2頭立て馬車の都市での操作性テスト」と「2頭立ての伝統的なボート引き」。都市操作性テストは、ごみ回収馬車やスクール馬車としての活用などがますます期待される状況で、これらの作業中に遭遇する可能性のある困難（様々な突然の騒音、道路に飛び出す子供や風船など）への対応の実証を行います。伝統的なボート牽引は、2頭の馬が漁船を 125 m 砂浜で牽引するイベントで、伝統的に行われていたものです（写真 10）。

そして、最後の5日目には、ブローニュ・シュル・メールからパリまでの 300 km を 24 時間以内に馬車で走行するレースが行われました（写真 11）。

馬車レースは、馬が担ってきた歴史や輓用馬について、世界各国のメディアや馬車が駆け抜ける沿線周辺の人々などを始めとして、日常は輓用馬にあまり関わりのない人々に興味を持ってもらう、知ってもらう機会になるものです。さらに、様々な競技やイベントは、失われつつある馬を操る技術で継承や研鑽にもつながるものであり、新たな利活用への足掛かりや新たなスポーツを生み出すきっかけとなるかもしれません。世界各国からの参加によって、輓用馬に関わりのある馬関係者のワールドワイドな情報や交流の場となることは言うまでもないでしょう。

### イベントの役割

モータリゼーション以降、動力としての馬の必要性が薄まり、欧米各国の輓用馬を愛する人々も、その保存と利活用について苦心し、模索しています。その一



写真 11. 300 km を馬車でリレー

方で「人が活用する」との視点がなければ、良い馬、能力のある馬、安心な馬への改良がおろそかになり、魅力ある存在から遠ざかってしまうことも予測されます。近年、フランスでは、環境配慮などの思想とともに、新たな馬の利活用の取組みが拡大していることは、救いではありますが、より多くの馬たちに活躍の場があることを願うばかりです。

そして、今回のイベント参加は、今後の日本の馬と人の関わり方、馬の多様な利活用を進めていくためにも、参考になる部分が多いと感じています。重種馬の利活用を通じて、日本とフランスの馬と人の文化がつながることも期待できる、日本チームの参加でした。また、今回、日仏両国の馬関連文化の共有・交流を円滑に進めるため、(公社)全国乗馬倶楽部振興協会と(一社)馬搬振興会、フランスの歴史ある種馬所である「Haras du Pin」の三者間で MOU（基本協定書）が結ばれるという成果もありました（写真 12）。



写真 12. MOU (基本協定書) 協定書の締結 (パリの日本大使館にて)



写真 14. パレードには在仏日本大使も馬車に乗って参加



写真 13. 旧市街の石畳に蹄の音が心地よい



写真 15. 凱旋門の前でチャグチャグ馬コのパレード。たくさんのパリっ子に囲まれて

### 参加者の声

本イベントの日本チーム参加の企画提案、実施までの様々な調整等に尽力いただいたヴァージニアさん、日本チームとしてイベントに参加した岩間さん、蛭川さん、全国乗馬倶楽部振興協会の布施事務局長にそれぞれお話をお伺いしました。

#### Virginia Kouyoumdjian (ヴァージニア・クユミジャン)

フランスには大型馬に関する多くのイベントがありますが、最もよく知られているものの1つに、ブローニュ・シュル・メール港からパリへの魚の輸送を再現した「La Route du Poisson」があります。これはラリーロードレースであると同時に、ドラフトホースの様々な用途（レジャーから自治体での作業まで）を示すための多くの競技会も含まれています。

私は、これまでも日本とフランスのドラフトホースの交流の活動に関わってきていて、2015年にはペルシュロン種の原

産地である「ペルシュ地方」で、日本の素晴らしい重種馬文化である「チャグチャグ馬コ」のパレードをしたり、2019年にはブドウ園での馬使用の専門家を数人連れていき、日本で研修を行いました。そのほか、日本とフランスの馬搬をそれぞれ紹介したり、専門家同士をつなぐなどもしています。そのような中、2021年にこのイベントが再開されたことで、多くの日本の重種馬や「はたらく馬」に関わる人々に、ヨーロッパ全体で何が行われているかを見てもらうため、日本チームがこのイベントに少しでも参加できたらいいなあと思うようになりました。これは、日本の馬や馬の多様な活用に関わる人たちが、経験豊富なヨーロッパの人々とアイデアを交換しながら学ぶ、絶好の機会だと考えたからです。

また同時に、このイベントを通じて、日本が馬肉の経済的市場であるだけでなく、馬を大切に、伝統的に様々なものに使用していたことをヨーロッパの人々に知ってもらう機会にもなれると考えていました。農作業をともにする馬の無病



写真 16. フランスのメディアからも注目！

息災を神社へ祈願する「チャグチャグ馬コ」は、日本の重種馬の代表的なお祭りの一つであるとともに、馬を家族同然に愛し、非常に大切にしていたことがよくわかるお祭りです。観客やメディアの注目が集まるイベント最終日に、パリのシャンゼリゼ通りから大統領官邸までの往復を、チャグチャグ馬コのデモンストレーションを行いました。その日はパレードに最適な天気では、はるばるやって来た岩手の人々は、凱旋門を背景にシャンゼリゼ通りで素晴らしいチャグチャグ馬コを披露することができました。そして、パリの群衆は彼らが見たものに驚き、そして大変喜んでいました。

フランスでは近年、環境配慮の観点などから、重種馬の利活用が盛んになってきています。日本でも岩手県の馬搬や北海道のブドウ園、新潟県の一部の土地を利用した馬耕など、小規模ではありますが進歩が見られていることを嬉しく思います。今後ますます、フランスと日本の馬の架け橋となり、馬と人々がともに生きていけるようなお手伝いのできればと考えています。

### (一社)馬搬振興会 岩間 敬

ドーバー海峡の漁港からパリのエリゼ宮殿まで魚を届ける馬車レース「La Route du Poisson」に参加できたことは、魚釣りが大好きな私にとって大変な幸運でした。あの有名な凱旋門・シャンゼリゼ通りを2頭立て馬車で走ることができたことは、これまで馬搬や馬耕など農林業や里山での馬活用を行う「はたらく馬」をやってきて心から良かったと思いました。この素晴らしいイベント参加に協力していただいた関係者皆様には感謝しかありません。

本馬車レースには、ドラフトホースが7種類ほど参加しており、ドラフトホースの原種を良く見ることが叶い、参加し



写真 17. 日仏の馬事交流に尽力してくれているヴァージニアさん(右)とチャグチャグ馬コ同好会会長の菊池さん(左)

ている馬たちの調教の素晴らしさ、馬の質の良さは大変羨ましく、文化、歴史、技術に対するヨーロッパの人達の思いを強く感じました。日本でも馬に関する価値をもっと広めていき、日本として独自の馬の活かし方や、もっと多様な場面に応じた馬の活用ができる日本社会を目指したいと強く感じました。日本で馬方として活動する中で、日々どうしたら「はたらく馬」をやりたい人がやれるようになるのか？馬の技術、トレーニングはどうするか？はたらく馬の選定、調教などはどうしたらもっと良くなるのか？など、考えることは沢山あります。馬自体の質、適正、人に対する従順性については、基本的に、多くの場合で馬の血統・DNAに関係すると考えているので、今回のフランスでの経験からも、「はたらく馬」にふさわしい馬の生産を考えることは必要と感じました。また1つの方法として、馬方や馬方を目指す人が、フランスやイギリスなどヨーロッパの「はたらく馬」文化や技術レベルが高い国に行って経験を積むことも大きな一歩となり、馬の品種への理解や技術研鑽、さらなる馬活用につながるようになるかと思えます。

この時代に今回の馬車レースを開催し、馬と人の暮らしと

営みを通して環境問題や伝統的知識など、社会に対して広く馬とともにメッセージを伝えるフランスの方々存在に触れ、この日本で小さくではありますが、これまで馬搬や馬耕などの技術を守り継承し、知ってもらって広めていきたいと活動してきたことが間違いではなかったのだと思えました。これまで一緒に頑張りましょうと手を差し伸べてくれた方々に感謝し、そして長年私に馬搬を指導してくれ、フランスまで一緒に行ってくれた御歳81歳になる遠野馬方の見方芳勝師匠、また見方師匠の先輩で元馬方の菊池盛治さんにも感謝です。

この馬車大会参加をきっかけに、日仏間での馬活用の協力、技術・人材交流を発展させるためのつながりができたことは、これから馬とともに働き暮らすことを目指す人々の未来にとっては素晴らしいことでこれからが楽しみです。私も一層の精進をしていきたいと思っております。

### ノースポールステイブル 蛭川 徹

2022年9月フランスで行われた馬車のイベント「La Route du Poisson」に参加させて頂き、関係者の皆様、サポートしてくれた家族に感謝致します。

このイベントの感想としては、行く前より想像していたことですが、やはり馬に関わる文化の幅と深さに感動しました。日本における現代の馬と言いますとサラブレッドによる競馬、馬術競技に関わる乗馬、肉用馬、そして観光地等の極少数の馬車や触れ合い等でその殆どを占めていると思われま。しかしフランスでは、競馬一つ取っても、普通の競馬以外に二輪のカートを曳く繋駕レースや速歩限定のレース等が今でも盛んに開催されています。馬車に関わるイベントも、馬の品種や内容も様々で、今回のイベントだけでも約300頭の馬と1,000人以上の人間が参加していました。今回は重種馬の馬車競技がメインのイベントではありましたが、開催期間中、騎乗や馬搬競技、声のみでの操作等、様々なテストも行われていました。

フランスでも日本と同じく、物資運搬や農耕、林業現場から馬の姿が無くなりかけた時期があったそうです。しかしSDGsが語られる昨今、馬の活用を含めたライフスタイルの見直しが広がっているようです。ワイナリーでの馬を使った農作業や馬車を使ったスクールバス、ゴミ収集車等、伝統的な馬文化と近代に合わせた新しい馬文化が共存していました。馬具や道具も、近代だからこそ使える素材やノウハウがあります。日本においても、これから現代だからこそ馬の活きる道、活用方法が増えてくるとひしひしと感じました。

関わる一人として、私もできることを一つずつやって行きたいと思いました。

### (公社)全国乗馬倶楽部振興協会 事務局長 布施 勝

私は、総合馬術競技の日本代表としてオリンピックにも出場した経験があり、馬とはずっと関わりがありましたが、当協会に赴任するまで、重種馬については「ばんば馬」や「馬車馬」ぐらいの認識しかありませんでした。馬耕・馬搬での活用についてもほとんど知識がありませんでしたが、今回の渡仏で様々な重種馬の利用法を知ることができました。

スケジュールの関係で、残念ながら今回のメインイベントである馬車レース（La Route du Poisson）を観ることはできませんでしたが、レースのスタート地点であるフランス北部ブローニュ・シュル・メールで初日の競技会を見学し、ブルトンやペルシュロンといった重種馬が馬術同様のドレッシングや障害飛越をしていることに驚きと感動を覚えました。あくまで私の推測ではありますが、馬車や馬耕・馬搬を安全に実施するために「ハミ受け」や「扶助（合図）」を調教し、馬の操縦性や従順性を培うために必要な訓練との位置づけであり、日本ではここまで丁寧に調教するのを今まで見たことがないので、大変参考になりました。

馬術先進国であるヨーロッパでは、競走馬やスポーツホース以外に重種馬の利活用も盛んに行われ、日本とは比べ物にならないぐらいの業界のコミュニティの多さにも驚きました。彼らの経験や知識の根本である馬術的なトレーニング方法を日本の重種馬を扱う人たちにも知ってもらえたらと強く思いました。

今では近代化が進み交通手段は車に代わり、また、農業においてもトラクターが活躍する時代へと変わったことで「馬」の活躍する場が世界中で減っていますが、近年フランスではブドウ畑の耕作の際、馬耕が見直されていると聞きました。地中での根のはり方が違い、できあがったワインの味も全然違うようです。「馬」を活用することで、規模は小さくても環境問題にも貢献できるのを日本の方々にも知っていただくとともに、昔から日本の祭事には「馬」が様々な形で存在しており、たとえばチャグチャグ馬コなどで、日本人の日常や文化として根付いていることをフランスの皆さんにも知っていただける機会となっていたら、今回の日本チームの参加は、両国にとっても大いに意義深いものだと考えています。

そして、このような取組みを、全国乗馬倶楽部振興協会としても今後とも支援していきたいと思っております。

# 書籍紹介

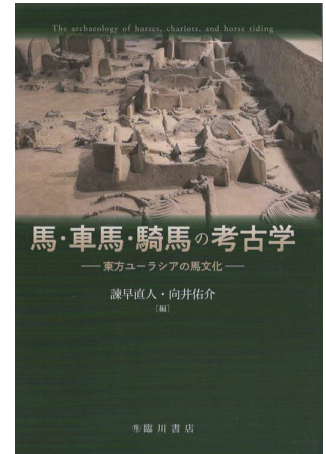
## 『馬・車馬・騎馬の考古学—東方ユーラシアの馬文化—』

編者：諫早直人・向井佑介

発行所：臨川書店

定価：3,200 円（税別）四六判 312 頁

発行日：2023 年 3 月 31 日



本書は、東方ユーラシアの古代馬文化を、12人の筆者に導かれながら紐解いていく約300頁に亘る知の大パノラマだ。読者は馬車を操り、駿馬に跨り、遊牧民の草原を駆け抜け颯爽と古代都市を俯瞰する。こうした世界観を盤石なものにするのは、数千年にわたる馬文化の歴史を、考古学的手法で蘇らせた12の斬新な論説である。読者はその知見と論理の展開を次々と鎧のように身に纏い、強靱になりながら終章に向かって疾走するのだ。

本書は考古学という手法を用いながらも、最新の報告、多言語の論文などを集積し、定説を揺るがし、捉え直すようにする。かくして「東方ユーラシアの家畜馬利用の研究基盤を再構築する」という野心的な目標が掲げられた。さらに「東方ユーラシアの家畜馬利用のあり方を、考古資料から通時的に復元することは、自らを記すことの少ない遊牧民と、自らはもちろん他者をも文字によって記してきた定住民を、文字による強烈な先入観を排して、同じ土俵の上で論じるための貴重な教材を提供するに違いない」という視点が絶妙である。

第1部「草原の馬文化」では、家畜化後、互いに交渉する戦車文化と騎馬文化に焦点を当て、利用の実態を「銜と鑣ひょう」を指標資料として解き明かしてみせた。ただ、研究者達が Gaunitz ら (2018) の論文を引用してボタイ遺跡のウマを家畜化されたモウコノウマと認識し、現存するモウコノウマを再野生 (feral) 種と記すのは、今後の研究報告を待つべきかもしれない。たとえば、紀元前三千年紀、メソポタミアで戦車を曳くために多頭数飼育されていたオナガー (野生ロバ) は、再野生ロバではなく、家畜化された過去を持つ野生ロバと認識されていることから、遺伝解析にのみ頼らない家畜化の定義の再評価もまた必要なのだろう。第2章はモンゴル帝国の祭祀とウマ犠牲に焦点を当て、供物や殉葬、骨焚祭などの様々な祭祀形態を解き明かし、今後は乳の利用についての研究が期待される。

第2部「中国の馬文化」では、前漢時代から後漢末期までの車馬と騎馬の利用が検討される。第3章では、「前2世紀の前漢時代には、騎馬遊牧民に対抗すべく戦車は急速に消失するのであるが、秦漢帝国において車馬は官僚たちのステータスシンボルとなり、西方ユーラシアには例をみない車社会を形成する」とあり、爛熟した東方都市文化を彷彿とさせる。第4章は牧馬の育成である。戦国時代から前漢時代に編纂された古典籍『周礼』などから読み解いた、当時の馬の管理技術が明らかにされる。本章の研究者は、戦国時代の馬の臼齒のエナメル質の炭素安定同位体比の測定を行い、摂取食物の傾向を分析した。その結果、0~2歳までは、自由放牧によって放牧地の食物 (C3植物: イネ科などの粗飼料) や、人為的な飼料 (C4植物: 粟, 稗, マメ科などの濃厚飼料) の両方を採食する食性であるが、2歳以降はC4植物の摂取率の上昇が見られることが検証された。同時に、魏国との交流が盛んであった遊牧民の墓域の馬坑から出土した馬も分析したところ、C3, C4植物のどちらかに偏ることのない食性を示したという。こうした解析からは、遊牧民が草原の植生を巧みに利用している姿がうかがえる。

第5章は「中国における騎馬の導入と展開」の考察であるが、次の第3部「馬文化の東伝」の第6章「鐙の出現」に直結していく。特に注目すべきは、西方から東方へという馬文化伝播の流れを、鐙の出現が「ゲームチェンジャー」となって反対方向に切り返した可能性だ。これは今後の研究で一層明らかになりそうで大変興味深い。

特別論考やコラムも独自の視点を提供し読み応えがある。考古学や西方・東方ユーラシアの馬文化に興味を持つ方は勿論のこと、西欧の馬文化に軸足を置いてきた馬関係者の方々にこそ読んで頂きたい一冊である。

木村李花子 (東京農業大学)

## 日本ウマ科学会第 36 回学術集会 優秀発表賞受賞者紹介

日本ウマ科学会では、馬事文化の振興とウマに関する研究の推進に資するため、学術集会における優秀な発表に対して優秀発表賞を贈り、表彰しています。栄えある第 36 回学術集会での受賞者の方々をご紹介します。

### 最優秀発表賞

- 金子大作（日本中央競馬会）  
（演題）蹄葉炎発症馬に対する 3D プリントシューの臨床応用



この度は最優秀発表賞という大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。3D プリント技術に関する知識が全くなかった私たちに、研究当初より熱心にご指導いただきました皆様、研究にご協力いただいた関係者の方々、また共に学んだ同輩諸氏に心より感謝申し上げます。この研究を始めるにあたって当初目標としたのは、幼駒の肢勢矯正および肢蹄疾患馬の装蹄療法に使用する特殊蹄鉄の問題点を解決することでした。生体を対象とした 3D データの取得、生体データに合致する蹄鉄の 3D デザイン技術の習得、最適な靱性や耐摩耗性を有する素材の検討、3D プリンターによる蹄鉄の印刷、伸縮性包帯や接着剤による装着方法や着脱が容易なデザインの検証、さらに、短い挙肢時間での装着の実証など多くの問題を解決した結果、今回受賞した 3D プリントした特殊蹄鉄の作製ならびに臨床応用について発表することができました。一方で、3D デザインの難しさや印刷設備の不足など課題は山積しており、より多くの馬関係者が 3D プリントシューを利用できる遠隔印刷システムの構築など改善点が多岐にわたることも事実です。今回の受賞を励みに、今後も馬の肢蹄管理に役立つ手法を求め精進して参りたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

### 優秀発表賞

- 多田健一郎（軽種馬育成調教センター）  
（演題）育成牧場における馬の消化管寄生虫の虫卵排出状況と駆虫薬の有効性



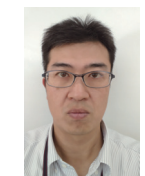
- 横森多夢（日本大学）  
（演題）サラブレッドの行動スコアに関わる性格関連遺伝子の同定



- 住友 藍（エルムホースクリニック）  
（演題）サラブレッド 1 歳馬における歯科調査



- 山下紀幸（鹿児島大学）  
（演題）血清アミロイド A による腕節構成骨々折の病態把握と予後判断の可能性



## 学会記事

### 会務報告

#### 日本ウマ科学会 2024 年度理事会 議事録

日時 : 2023 年 11 月 27 日 13 時 10 分から 13 時 50 分

場所 : KFC Hall & Room 101-103

出席者: 副会長 田谷一善・笠嶋快周  
 常任理事 山中隆史・半澤 恵・楠瀬 良・  
 近藤高志・桑原正貴・平賀 敦・  
 佐々木直樹  
 理事 天谷友彦・上田 毅・河合正人・  
 川嶋 舟・松田芳和  
 監事 末崎真澄・坂東義和  
 事務局 福田健太郎  
 (青木会長は都合により欠席)

山中庶務担当常任理事による開会の辞に続き、会則第 20 条に基づき理事 18 名(うち委任状 4 名)の出席により本理事会が成立したことを宣言。2024 年度理事会が開催された。また、会長の欠席に伴い、会則第 14 条に基づいて議長には笠嶋副会長が就任した。なお、議事録署名人に川嶋・松田両理事を指名した。

また、本理事会に併せて、評議員会も開催された。

議題 I および II が一括上程された。

議題 I 2023 年度事業報告(案)について

山中庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 正会員数は 15 名増加。名誉会員、賛助会員の増減なし。
- 選考委員会を通して奨励賞に 1 名が選考された。
- 出版関係は Journal of Equine Science が 4 号、Hippophile が 4 号それぞれ出版された。
- 学術集会对面形式で行われ盛況であったが、2 日目に演者の 1 名がコロナウイルス感染症を発症し、臨床委員会招待講演およびシンポジウムは中止された。これらの講演については後日 WEB オンデマンド配信にて 2 か月間公開された。
- 国際交流促進事業に対し 2023 年後期に 2 件の応募があり、共に採択された。
- 広報関係は、ホームページサーバーの安定性を強化し、積極的な情報発信を行った。
- ICEEP12 の 2026 年国内開催に向け、開催組織委員会およびワーキンググループを発足させた。

議題 II 2023 年度収支決算(案)について

半澤会計担当常任理事より資料に基づき説明があった。なお監事の指摘により、本年度より一般会計について損益計算書を資料に添付した。主な点は以下の通り。

- 年会費を支払った正会員の数が微減となり、会費収入が微減。
- 対面形式の学術集会对面形式が再開され、参加費収入および企業展示収入が発生。
- シンポジウムの中止に伴い旅費の返納が発生し、雑収入が増。
- 出版経費増に伴い出版刊行事業費が増加。
- 学術集会对面形式に伴い学術集会对面形式事業費が著しく増加。
- 表彰者の増加で表彰事業費が増加。
- ICEEP12 の口座開設と銀行印作製に対し国際学会対応費を執行。
- 第 36 回学術集会对面形式の外国人講師への旅費出費が次年度となったため臨床委員会事業費における講師交通費が著しく減少。
- 認定馬臨床獣医師制度会計では受検者の減少により約 9 万円の赤字を計上。

次いで監査報告が行われ、末崎監事から 2023 年 11 月 8 日に業務監査した結果、事業が適正に運営されている旨の報告がなされた。

その後、議題 I と II は原案通り承認され、定時総会に上程されることとなった。

続いて議題 III と IV が一括上程された。

議題 III 2024 年度事業計画(案)について

山中庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 表彰関連では、帝京科学大学のリングホーファー萌奈美会員が奨励賞を受賞し、明日の定時総会後に表彰式を開催。
- 出版関係は、例年通り 4 号ずつ発刊予定。
- 新版のウマ用語集が 2024 年初めに刊行予定。本年度新規会員および既存会員の希望者に配布。
- 本年度の学術集会对面形式では、新規入会促進策として、一般非会員の参加者全員に年会費なしでの入会特典を付与する。
- 国際交流促進事業については、例年通り前期、後期に分けて募集。
- 認定馬臨床獣医師関係は、明日の試験に 2 名が申し込みを実施。認定取得して 5 年が経過した者の更新手続きを本年度 12 月に実施予定。
- 2026 年に日本で開催される予定の ICEEP12 について、開催組織委員会およびワーキンググループとして活動予定。

## 議題Ⅳ 2024年度収支予算(案)について

半澤庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 会費収入は前年度末(10月31日)における国内の会員数の95%が支払うことを想定し、837名が5,000円納めることとし4,180,000円。海外会員1名7,000円を加えた4,187,000円を収入として計上。賛助会員は20社21口として1,050,000円を計上。
- 学術集会参加費収入は、10月31日現在の申込者178名の1.1倍を想定し、196名参加と考えすべて一般会員とカウントし1,176,000円として計上。
- JES別刷り手数料の廃止に伴い、著者負担金を減額。
- 事務担当従事員の1名増に伴い人件費増額。
- 一般非会員学会参加者へ会員特典を付与する施策および新ウマ用語集刊行に伴い、印刷製本費と通信運搬費を増額。
- 本年度の学術集会における特別講演および臨床委員会招待講演講師への旅費支出に伴い、講師交通費をそれぞれ増額。
- 褒賞受賞者減のため、表彰事業費を減額。
- ICEEP12の大会ロゴ作成費用を国際学会対応費に計上。
- 認定馬臨床獣医師会計の収入は前年度の数字を参考に6名受験として受検料収入90,000円を計上。ほか、更新対象者103名の7割が更新を行うと仮定し、更新料収入を505,000円計上。一方、更新作業の追加により事業管理費を増額。

その後、議題ⅢとⅣは原案通り承認され、定時総会に上程されることとなった。

## 議題Ⅴ 役員の変更について

山中庶務担当常任理事より、2024-2025年度の役員、評議員、その他委員会委員候補者の選考結果が報告され、原案通り承認されたため、定時総会に上程されることとなった。

その他、新しい提出議題がなかったため閉会。

以上、議事の顛末を記録し、これを証するため署名押印する。

2023年12月11日

## 日本ウマ科学会 2024年度定時総会 議事録

日時：2023年11月28日11時から11時50分

場所：KFC Hall & Rooms：KFC Hall

山中庶務担当常任理事による開会の辞に続き、会則第18条に基づき青木会長が議長となること、会長が所用で欠席のため、笠嶋副会長を議長に選出。2024年度定時総会が開催された。なお、議事録署名人に高井伸二・中西信吾両会員を指名した。

議題ⅠおよびⅡが一括上程された。

## 議題Ⅰ 2023年度事業報告(案)について

山中庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 正会員数は15名増加。名誉会員、賛助会員の増減なし。
- 選考委員会を通して奨励賞に1名が選考された。
- 出版関係はJournal of Equine Scienceが4号、Hippophileが4号それぞれ出版された。
- 学術集会は対面形式で行われ盛況であったが、2日目に演者の1名がコロナウイルス感染症を発症し、臨床委員会招待講演およびシンポジウムは中止された。これらの講演については後日WEBオンデマンド配信にて2か月間公開された。
- 国際交流促進事業に対し2023年後期に2件の応募があり、共に採択された。
- 広報関係は、ホームページサーバーの安定性を強化し、積極的な情報発信を行った。
- ICEEP12の2026年国内開催に向け、開催組織委員会およびワーキンググループを発足させた。

## 議題Ⅱ 2023年度収支決算(案)について

半澤会計担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 年会費を支払った正会員の数が微減となり、会費収入が微減。
- 対面形式の学術集会が再開され、参加費収入および企業展示収入が発生。
- シンポジウムの中止に伴い旅費の返納が発生し、雑収入が増。
- 出版経費増に伴い出版刊行事業費が増加。
- 学術集会再開に伴い学術集会事業費が著しく増加。
- 表彰者の増加で表彰事業費が増加。
- ICEEP12の口座開設と銀行印作製に対し国際学会対応費を執行。
- 第36回学術集会の外国人講師への旅費出費が次年度となったため臨床委員会事業費における講師交通費が著しく減少。
- 認定馬臨床獣医師制度会計では受検者の減少により約9万円の赤字を計上。

次いで監査報告が行われ、坂東監事から2023年11月8日に業務監査した結果、事業が適正に運営されている旨の報告がなされた。

その後、議題ⅠおよびⅡは原案通り可決された。

議題ⅢとⅣが一括上程された。

議題Ⅲ 2024年度事業計画（案）について

山中庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 表彰関連では、帝京科学大学のリングホーファー萌奈美会員が奨励賞を受賞し、定時総会後に表彰式を開催。
- 出版関係は、例年通り4号ずつ発刊予定。
- 新版のウマ用語集が2024年初めに刊行予定。本年度新規会員および既存会員の希望者に配布。
- 本年度の学術集会では、新規入会促進策として、一般非会員の参加者全員に年会費なしでの入会特典を付与する。
- 国際交流促進事業については、例年通り前期、後期に分けて募集。
- 認定馬臨床獣医師関係は、本日実施予定の試験に2名が申し込みを実施。認定取得して5年が経過した者の更新手続きを本年度12月に実施予定。
- 2026年に日本で開催される予定のICEEP12について、開催組織委員会およびワーキンググループとして活動予定。

議題Ⅳ 2024年度収支予算（案）について

半澤庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 会費収入は前年度末（10月31日）における国内の会員数の95%が支払うことを想定し、837名が5,000円納めることとし4,180,000円。海外会員1名7,000円を加えた4,187,000円を収入として計上。賛助会員は20社21口として1,050,000円を計上。
- 学術集会参加費収入は、10月31日現在の申込者178名の1.1倍を想定し、196名参加と考えすべて一般会員とカウントし1,176,000円として計上。
- JES別刷り手数料の廃止に伴い、著者負担金を減額。
- 事務担当従事員の1名増に伴い人件費増額。
- 一般非会員学会参加者へ会員特典を付与する施策および新ウマ用語集刊行に伴い、印刷製本費と通信運搬費を増額。
- 本年度の学術集会における特別講演および臨床委員会招待講演講師への旅費支出に伴い、講師交通費をそれぞれ増額。
- 褒賞受賞者減のため、表彰事業費を減額。
- ICEEP12の大会ロゴ作成費用を国際学会対応費に計上。
- 認定馬臨床獣医師会計の収入は前年度の数字を参考に6名受験として受検料収入90,000円を計上。ほか、更新対象者103名の7割が更新を行うと仮定し、更新料収入を505,000円計上。一方、更新作業の追加により事業管理費を増額。

その後、議題ⅢとⅣは原案通り可決された。

議題Ⅴ 役員の改選について

山中庶務担当常任理事より、2024-2025年度の役員、評議員、その他委員会委員候補者の選考結果が報告され、原案通り可決された。

その他

林正樹会員より、来年日本で開催されるアジア競馬会議に本学会が関わる可能性はあるかどうかの質問があった。これに対し山中庶務担当常任理事より、本学会へシンポジストの推薦等の相談があれば検討を行う考えであると返答した。

以上、議事の顛末を記録し、これを証するため署名押印する。

2023年12月11日

## I. 2023年度事業報告（案）

（2022年11月1日から2023年10月31日）

### 会員の移動

	名誉会長	名誉会員	正会員	賛助会員
年度始	0	7	864	20
入会	0	0	65	0
退会	0	0	50	0
年度末	0	7	879	20

（2023年10月31日現在）

### 1. 表彰関係

- 学会賞を日本装削蹄協会の佐藤文夫会員、奨励賞をJRAの溝部文彬会員に授与した。また、選考委員会を通して表彰対象者の選考を行い、奨励賞に帝京科学大学のリングホーフアー萌奈美会員が選考された。
- 第35回学術集会において、最優秀発表賞1題（吉原知子会員）および優秀発表賞4題（日高修平会員・高橋謙也会員・渡部浩之会員・向亮会員）を表彰した。

### 2. 会議関係

- 定時総会 1回 22/11/29 KFC Hall & Rooms
- 理事会 2回 22/11/28 KFC Hall & Rooms  
23/ 8/ 1 メール会議（臨時）
- 評議員会 1回 22/11/28 KFC Hall & Rooms
- 常任理事会 3回 22/11/ 9 JRA 新橋分館  
23/ 3/ 6 JRA 新橋分館  
23/ 7/28 JRA 新橋分館
- 業務監査 1回 22/11/ 4 JRA 新橋分館
- 編集委員会 2回 22/11/28 KFC Hall & Rooms  
（JES および Hippophile）
- 国際委員会 1回 23/ 4/ 4 メール会議
- 学術委員会 2回 22/11/30 メール会議  
23/10/ 6 メール会議
- 臨床委員会 1回 22/11/29 KFC Hall & Rooms
- 各種表彰者選考委員会  
1回 23/ 7/28 JRA 新橋分館
- 役員・評議員候補者選考委員会  
1回 23/ 7/28 JRA 新橋分館

### 3. 出版関係

- 学術雑誌の発刊・配布  
Journal of Equine Science (JES) Vol. 33, No. 4, Vol. 34, No. 1~3 (Full Paper 10編: Note 7編) および Hippophile No. 91~94 を発刊し、会員に配布した。

- ウマ用語集の配布  
新規会員に配布した。

### 4. 学術集会関係

#### ◆ 第35回学術集会

日 程：2022年11月28～29日

（29日予定の臨床委員会招待講演およびシンポジウムは中止し、2023年1月19日から3月31日までWEB開催）

場 所：KFC Hall & Rooms (KFC Hall・Annex・Room 101-102)

参加者：331名（一般会員243名、非会員45名、学生43名）

内 容：

●一般講演（49演題）

●シンポジウム（WEB開催）

テーマ：『競走馬と競技馬におけるドーピングと薬物管理』

座 長：石川裕博（JRA馬事部アンチドーピング課）

コメンテーター：Dr. Pierre Louis Toutain

（ロンドン王立獣医大学）

○パネリストおよび演題

日本中央競馬会（JRA）における2023年からの新たな薬物規制制度について

講演者：溝部文彬（JRA馬事部アンチドーピング課）

競走馬理化学研究所における最新の薬物検査体制及び国際的な評価

講演者：河津知樹（競走馬理化学研究所）

日本の馬術競技における治療とドーピングコントロール

講演者：天谷友彦（大和高原診療所）

競走馬におけるフルニキシンの薬物管理

モンテカルロシミュレーションを用いた検出期間の予測

講演者：黒田泰輔（JRA競走馬総合研究所）

競走馬及び馬術競技の公正性の維持に資する

競走馬理化学研究所の研究

講演者：石井英昭（競走馬理化学研究所）

●学会賞・奨励賞受賞講演

○学会賞受賞講演

『軽種馬生産育成技術の向上に関する研究』

講演者：佐藤 文夫（日本装削蹄協会）

○奨励賞受賞講演

『サラブレッド平地・障害競走における落馬の発生疫学に関する研究』

講演者：溝部 文彬（JRA馬事部）

●臨床委員会招待講演（WEB 開催）

座長：黒田泰輔（JRA 競走馬総合研究所）

『Medication and doping control:

what the prescribing veterinarian should know and do』

（薬物とドーピングコントロール：

処方獣医師が知るべきこととするべきこと）

講演者：Dr. Pierre Louis Toutain（ロンドン王立獣医大学）

●企業展示 11 社

●伯楽会による絵画展示（企業展示会場にて実施）

5. 国際関係

国際交流促進事業（海外渡航支援）へ 2023 年後期に 2 件の応募があり、共に採択された。

6. 広報関係

ホームページのサーバーの安定性を強化した上、積極的な情報発信を行った。

7. その他

第 12 回国際馬運動生理会議（ICEEP12）の 2026 年国内開催に向け、開催組織委員会およびワーキンググループを発足させた。

## II. 2023 年度収支決算（案）

（2022 年 11 月 1 日から 2023 年 10 月 31 日まで）

### 1. 一般会計

#### 1) 収入の部

勘定科目		予算額	決算額	対予算額
大科目	中科目	(円)	(円)	(増・減△)
会費収入		5,157,000	5,120,000	△ 37,000
	正会員会費収入①	4,107,000	4,070,000	△ 37,000
	賛助会員会費収入②	1,050,000	1,050,000	0
学術集会参加費収入		1,080,000	2,156,000	1,076,000
	学術集会参加費収入③	1,080,000	2,156,000	1,076,000
賛助金収入		3,300,000	3,300,000	0
	日本中央競馬会	3,000,000	3,000,000	0
	地方競馬全国協会	300,000	300,000	0
企業展示収入		2,500,000	2,788,483	288,483
	企業展示収入	2,500,000	2,788,483	288,483
寄付金収入		0	0	0
	寄付金収入	0	0	0
雑収入		790,100	1,163,312	373,212
	広告料	580,000	585,200	5,200
	著者負担金	200,000	264,000	64,000
	預金利子	100	132	32
	その他	10,000	313,980	303,980
小計		12,827,100	14,527,795	1,700,695
前年度繰越金収入		15,918,664	15,918,664	0
収入合計		28,745,764	30,446,459	1,700,695
			(A)	

①国内 814 人 × 5,000 円 = 4,070,000 円

② 20 社 21 口 × 50,000 円 = 1,050,000 円

③参加者 331 名（会員 243 名を含む）

なお、予算作成は会員 180 人（年度末の会員数の 1.1 倍）で計算

2) 支出の部				2023 年度 一般会計 損益計算書			
勘定科目		予算額	決算額	対予算額	収入の部		
大科目	中科目	(円)	(円)	(増.減△)	対前年 (増.減)		
管理費支出		1,955,000	1,698,744	△256,256	正会員会費収入	4,070,000	△205,000
	旅費交通費	450,000	428,932	△21,068	賛助会員会費収入	1,050,000	0
	消耗品費	40,000	32,643	△7,357	学術集会参加費収入	2,156,000	2,156,000
	人件費	550,000	522,880	△27,120	賛助金収入	3,300,000	0
	印刷費	50,000	66,000	16,000	企業展示収入	2,788,483	2,788,483
	広報費	300,000	228,580	△71,420	雑収入	1,163,312	366,977
	謝金	30,000	0	△30,000	総収入	14,527,795	5,106,460
	会議費	45,000	33,595	△11,405			
	通信連絡費	390,000	354,146	△35,854	支出の部		対前年 (増.減)
	備品費	100,000	31,968	△68,032	管理費	1,575,544	43,192
出版刊行事業費支出		7,640,000	7,436,534	△203,466	出版刊行事業費	7,436,534	1,037,007
	印刷製本費	6,500,000	6,667,652	167,652	学術集会事業費	3,447,993	1,934,951
	通信運搬費	600,000	501,094	△98,906	表彰事業費	348,150	266,200
	編集費	300,000	144,788	△155,212	国際事業費	216,600	216,600
	会議費	10,000	0	△10,000	臨床委員会事業費	341,804	△257,296
	原稿料	200,000	123,000	△77,000	雑費	139,200	139,200
	翻訳料	30,000	0	△30,000	総支出	13,505,825	3,379,854
学術集会事業費支出		3,230,000	3,447,993	217,993			
	講師交通費	100,000	100,000	0	当期利益	1,021,970	1,726,606
	大会開催費	2,600,000	2,858,239	258,239			
	印刷費	400,000	376,090	△23,910			
	通信運搬費	130,000	113,664	△16,336			
表彰事業費支出		420,000	348,150	△71,850			
	褒賞費	120,000	100,650	△19,350			
	褒賞副賞費	300,000	247,500	△52,500			
国際事業費支出		410,000	216,600	△193,400			
	国際会議派遣支援費	400,000	200,000	△200,000			
	国際学会対応費	10,000	16,600	6,600			
臨床委員会事業費支出		1,940,000	341,804	△1,598,196			
	講師交通費	1,600,000	222,000	△1,378,000			
	セミナー開催費	300,000	119,804	△180,196			
	印刷費・DVD作製費	20,000	0	△20,000			
	通信運搬費	20,000	0	△20,000			
雑費		20,000	16,000	△4,000			
	雑費	20,000	16,000	△4,000			
小計		15,615,000	13,505,825	△2,109,175			
予備費		13,130,764	0	△13,130,764			
支出合計		28,745,764	13,505,825	△15,239,939			
			(B)				
3) 預金残高							
		収入決算額 (A)	30,446,459				
		- 支出決算額 (B)	13,505,825				
		差額 (C)	16,940,634	⇒次年度へ繰越			

## 認定馬臨床獣医師制度会計

### 1) 収入の部

勘定科目		予算額 (円)	決算額 (円)	対予算額 (増.減△)
大科目	中科目			
繰入金収入		0	0	0
	一般会計からの繰入金	0	0	0
雑収入		100,000	44,012	△55,988
	受検料収入	100,000	44,000	△56,000
	預金利子	0	12	12
	その他	0	0	0
小計		100,000	44,012	△55,988
前年度繰越金収入		1,365,412	1,365,412	0
収入合計		1,465,412	1,409,424 (A)	△55,988

### 2) 支出の部

勘定科目		予算額 (円)	決算額 (円)	対予算額 (増.減△)
大科目	中科目			
繰戻金支出		0	0	0
	一般会計への繰戻金	0	0	0
事業費支出		260,000	132,930	△127,070
	事業管理費	250,000	132,600	△117,400
	印刷費	0	0	0
	通信連絡費	10,000	330	△9,670
小計		260,000	132,930	△127,070
予備費		1,205,412	0	△1,205,412
支出合計		1,465,412	132,930 (B)	△1,332,482

### 3) 預金残高

収入決算額 (A)	1,409,424
- 支出決算額 (B)	132,930
差額 (C)	1,276,494 ⇒次年度へ繰越

### 4) 損益計算

収入小計	44,012
- 支出小計	132,930
単年度収支	-88,918

## 監査報告書

2023年11月8日に、2023年度の業務を監査した結果、適正に運営されていることを認めましたので、ここに報告します。

2023年11月8日

日本ウマ科学会  
会長 青木 修 殿

監事 末崎 真澄

監事 坂東 義和

## Ⅲ. 2024年度事業計画（案）

(2023年11月1日から2024年10月31日まで)

### 1. 表彰関係

本年は第36回学術集会で奨励賞に帝京科学大学のリングホーファー萌奈美会員を選考し表彰の予定。  
例年通り選考委員会を通して表彰対象者の選考を行う。

### 2. 会議関係

1) 定時総会	1回
2) 理事会	1回
3) 評議員会	1回
4) 常任理事会	3回
5) 業務監査	1回
6) 編集委員会	2回
7) 国際委員会	1回
8) 学術委員会	2回
9) 臨床委員会	1回
10) 各種表彰者選考委員会	1回

### 3. 出版関係

#### 1) 学術雑誌の発刊・配布

Journal of Equine Science (JES) Vol. 34, No. 4, Vol. 35, No. 1~3 および Hippophile No. 95~98 を発刊し、会員に配布する。

#### 2) ウマ用語集の改訂および配布

ウマ用語集を改訂し、既存会員の希望者および新規会員に配布する。

### 4. 学術集会関係

#### 1) 第36回学術集会

日程：2023年11月27日（月）～11月28日（火）

場所：国際ファッションセンター（KFC Hall & Rooms）  
〒130-0015 東京都墨田区横網1-6-1  
(03-5610-5801)

参加費：事前登録制。

会員 6,000円（年会費5,000円も合わせて事前に支払）

非会員 10,000円（当日申し出の場合2Fの郵便局にて郵便振替）

学生 会員 2,000円 非会員 3,000円

※本年は一般非会員の登録者全員に年会費なしでの入会特典を付与

## 内 容：

- 一般講演（43 演題）
- 特別講演

演 題：『BEVA (British Equine Veterinary Association) について／自動診断装置を用いた跛行診断への取組みおよび核シンチグラフィの現状』

講演者：Roger Smith 教授  
(ロンドン王立獣医大学／BEVA 会長)

- 臨床委員会企画招待講演

演 題：『馬臨床における科学的根拠に基づいた鍼治療』

講演者：Huisheng Xie 博士 (Chi University, 米国)

- 奨励賞受賞講演

演 題：『動物心理・行動・生態学から探るウマの社会性に関する研究』

講演者：リングホーファー萌奈美 (帝京科学大学)

## 2) 会議日程

## JES 編集委員会

11月28日(火) 12:10-12:50 第3会場 (11F)

## Hippophile 編集委員会

11月27日(月) 11:30-12:30 第3会場 (10F)

## 理事会・評議員会

11月27日(月) 13:10-13:50 第2会場 (10F)

## 定時総会

11月28日(火) 11:00-11:50 第1会場 (3F)

## 臨床委員会

11月28日(火) 13:00-13:50 第3会場 (11F)

## 5. 国際関係

国際交流促進事業として会員の海外渡航を支援する。募集は3月末日と9月末日を締め切りとして年2回実施する。

## 6. 認定馬臨床獣医師関係

「認定馬臨床獣医師」第4回認定試験を2023年11月28日(火)に実施。第5回認定試験実施(2024年11月26日(火)(仮))に向けて準備を行う。また、5年ごとの更新手続きに関する事務手続きを行う。

## 7. 第12回国際馬運動生理会議 (ICEEP12) 関係

2026年に日本で開催される予定のICEEP12について、開催組織委員会およびワーキンググループとして活動する。

## IV. 2024年度収支予算(案)

(2023年11月1日から2024年10月31日まで)

## 1. 一般会計

## 1) 収入の部

勘定科目		前年度予算額	予算額	対前年度
大科目	中科目	(円)	(円)	(増,減△)
会費収入		5,157,000	5,237,000	80,000
	正会員会費収入 ①	4,107,000	4,187,000	80,000
	賛助会員会費収入②	1,050,000	1,050,000	0
学術集会参加費収入		1,080,000	1,176,000	96,000
	学術集会参加費収入③	1,080,000	1,176,000	96,000
協賛金収入		3,300,000	3,300,000	0
	日本中央競馬会	3,000,000	3,000,000	0
	地方競馬全国協会	300,000	300,000	0
企業展示収入		2,500,000	3,000,000	500,000
	企業展示収入 ④	2,500,000	3,000,000	500,000
寄付金収入		0	0	0
	寄付金収入	0	0	0
雑収入		790,100	720,100	△70,000
	広告料	580,000	600,000	20,000
	著者負担金	200,000	100,000	△100,000
	預金利子	100	100	0
	その他	10,000	20,000	10,000
前年度繰越金収入		15,918,664	16,940,634	1,021,970
	繰越金	15,918,664	16,940,634	1,021,970
収入合計		28,745,764	30,373,734	1,627,970

①国内会員数の約95%として算出。

国内会員 837名 × 5,000円 = 4,180,000円

海外 1人 × 7,000円 = 7,000円

② 20社 21口 × 50,000円 = 1,050,000円

③ 第36回学術集会の参加費一般 6,000円 × 196名 (10月31日現在の申込数 178名の1.1倍として計算)

④ 学術集会に付随して実施。

2) 支出の部				
勘定科目		前年度予算額	予算額	対前年度
大科目	中科目	(円)	(円)	(増.減△)
管理費支出		1,955,000	2,350,000	395,000
	旅費交通費	450,000	400,000	△50,000
	消耗品費	40,000	40,000	0
	人件費	550,000	930,000	380,000
	印刷費	50,000	70,000	20,000
	広報費	300,000	300,000	0
	謝金	30,000	30,000	0
	会議費	45,000	40,000	△5,000
	通信連絡費	390,000	390,000	0
	備品費	100,000	150,000	50,000
出版刊行事業費支出		7,640,000	9,240,000	1,600,000
	印刷製本費	6,500,000	8,060,000	1,560,000
	通信運搬費	600,000	640,000	40,000
	編集費	300,000	300,000	0
	会議費	10,000	10,000	0
	原稿料	200,000	200,000	0
	翻訳料	30,000	30,000	0
学術集会事業費支出		3,230,000	3,770,000	540,000
	講師交通費	100,000	640,000	540,000
	大会開催費	2,600,000	2,600,000	0
	印刷費	400,000	400,000	0
	通信運搬費	130,000	130,000	0
表彰事業費支出		420,000	330,000	△90,000
	褒賞費	120,000	130,000	10,000
	褒賞副賞費	300,000	200,000	△100,000
国際事業費支出		410,000	750,000	340,000
	国際会議派遣支援費	400,000	400,000	0
	国際学会対応費	10,000	350,000	340,000
臨床委員会事業費支出		1,940,000	2,670,000	730,000
	講師交通費	1,600,000	2,370,000	770,000
	セミナー開催費	300,000	300,000	0
	印刷費・DVD作製費	20,000	0	△20,000
	通信運搬費	20,000	0	△20,000
雑費		20,000	20,000	0
	雑費	20,000	20,000	0
予備費		13,130,764	11,243,734	△1,887,030
	予備費	13,130,764	11,243,734	△1,887,030
支出合計		28,745,764	30,373,734	1,627,970

## 2. 認定馬臨床獣医師制度会計

### 1) 収入の部

勘定科目		前年度予算額	予算額	対前年度
大科目	中科目	(円)	(円)	(増.減△)
繰入金収入		0	0	0
	一般会計からの繰入金	0	0	0
雑収入		100,000	595,000	495,000
	受検料収入 ①	100,000	90,000	△10,000
	更新料収入 ②	0	505,000	505,000
	預金利子	0	0	0
	その他	0	0	0
前年度繰越金収入		1,365,412	1,276,494	△88,918
	繰越金	1,365,412	1,276,494	△88,918
収入合計		1,465,412	1,871,494	406,082

### 2) 支出の部

勘定科目		前年度予算額	予算額	対前年度
大科目	中科目	(円)	(円)	(増.減△)
繰戻金支出		0	0	0
	一般会計への繰戻金	0	0	0
事業費支出		260,000	755,000	495,000
	事業管理費	250,000	745,000	495,000
	印刷費	0	0	0
	通信連絡費	10,000	10,000	0
予備費		1,205,412	1,116,494	△88,918
	予備費	1,205,412	1,116,494	△88,918
支出合計		1,465,412	1,871,494	406,082

① 受験者6名×15,000円

② 更新対象者103名×0.7×7,000円

## V. 役員の改選について

2024年度の役員改選案は、以下のとおりです。

### 2024-2025年度 日本ウマ科学会 役員名簿（案）

役職名	担当	氏名	所属
会長		青木 修	日本装蹄協合理事
副会長		田谷一善	東京農工大学名誉教授
(2)		笠嶋快周	JRA 競走馬総合研究所長
常任理事	庶務	山中隆史	JRA 競走馬総合研究所企画調整室長
(7)	会計	半澤 恵	東京農業大学教授
	編集	楠瀬 良	日本装蹄協会参与
	学術	近藤高志	JRA 競走馬総合研究所企画調整室
	国際	桑原正貴	東京大学教授
	広報	平賀 敦	JRA 競走馬総合研究所参与
	臨床	佐々木直樹	山口大学教授
理事		間 弘子	JRA 参与
(9)		天谷友彦	大和高原動物診療所院長・乗馬クラブクレイン馬事部部长
		上田 毅	全国公営競馬獣医師協会会長
		河合正人	北海道大学耕地圏ステーション静内研究牧場長
		川嶋 舟	東京農業大学准教授
		側原 仁	競走馬理化学研究所常務理事
		近藤誠司	北海道大学名誉教授
		松田芳和	JRA 馬事部長
		遊佐繁基	日本軽種馬協会静内種馬場長
監事		末崎真澄	元馬事文化財団参与
(2)		坂東義和	競走馬理化学研究所常務理事
事務局長		福田健太郎	JRA 競走馬総合研究所企画調整室上席調査役
評議員		相川貴志	地方競馬全国協会参与
(24)		荒川雄季	日高獣医師会会長・北海道獣医師会日高支部長
	(新)	乙訓篤司	日生研株式会社取締役
		加藤智弘	JRA 馬事部獣医課長
		北野あづさ	日本馬術連盟業務部調査役
		倉田孝之	伯楽会事務局長 早稲田大学講師
		古角 博	JRA 美浦トレーニング・センター競走馬診療所長
		佐藤浩二	日本装蹄協会顧問
		佐藤正人	みなみ北海道農業共済組合日高支所家畜高度医療センター長
		柴田真美	跡見学園女子大学教授
		高井伸二	北里大学名誉教授
		田上正明	帯広畜産大学特任教授・社台ホースクリニック技術顧問
		中西信吾	ケアイホースラボ 馬事業部研究顧問
		南保泰雄	帯広畜産大学教授
		額田紀雄	JRA 栗東トレーニング・センター競走馬診療所長
		沼田恭子	特定非営利活動法人引退馬協会代表理事
		帆保誠二	鹿児島大学教授
		三浦暁子	エッセイスト
		三角一浩	鹿児島大学教授
		村瀬哲磨	岐阜大学教授
		森 達也	日本装蹄協会装蹄教育センター調査役
		山下大輔	日本馬事協会業務部次長
		山田一孝	麻布大学教授
		山谷吉樹	日本大学教授

2024-2025 年度 日本ウマ科学会 各種委員会委員名簿 (案)

◎編集委員会

委員長	楠瀬 良		
	JES		Hippophile
編集委員長	田谷一善	編集委員長	楠瀬 良 兼務
主幹委員	近藤高志 高橋敏之	編集委員	阿部憲二 荒川由紀子 有吉正徳 北野あづさ 木村季花子 近藤誠司 近藤高志 末崎真澄 関 正喜 戸崎晃明 永井富美子 沼田恭子 古林英一 三浦暁子 守谷 久 山下大輔 山本真広
編集委員	間 弘子 青木 修 朝井 洋 天野朋子 筏井宏実 大澤健司 大村 一 落合謙爾 角田 勤 笠嶋快周 片山芳也 河合正人 菊池元宏 草野寛一 桑野睦敏 桑原正貴 頃末憲治 佐々木直樹 佐藤文夫 高須正規 高橋 透 戸崎晃明 永田俊一 南保泰雄 二宮 茂 丹羽秀和 平賀 敦 帆保誠二 (新) 松井 朗 前田 健 松浦晶央 三角一浩 三宅 武 宮越大輔 山田一孝 山中隆史 山谷吉樹 Christine Aurich Inhyung Lee Marta Siemiieniuch		

◎国際委員会

委員長	桑原正貴
委員	間 弘子 高橋敏之 戸崎晃明 南保泰雄

◎学術委員会

委員長	近藤高志
委員	上野孝範 大村 一 桑野睦敏 佐々木直樹 末崎真澄 永田俊一 南保泰雄 丹羽秀和 半澤 恵 (新) 村瀬晴崇 山下大輔

◎臨床委員会

委員長	佐々木直樹
主幹委員	大村 一 佐藤文夫 佐藤正人 三角一浩
委員	滄木孝弘 姉崎 亮 石川真悟 井上裕士 上田 毅 牛屋重人 岡田 淳 加藤史樹 黒田泰輔 小林光紀 齋藤重彰 敷地光盛 富岡美千子 藤江晴彦 前田昌也 松田芳和 宮越大輔 村中雅則 森 達也 山手寛嗣 山谷吉樹 遊佐繁基

# 臨床委員会 DVD 販売のお知らせ

日本ウマ科学会臨床委員会では、過去に開催された臨床委員会主催の招待講演ならびに実習のDVDを販売しています。

## <お申し込み方法>

以下の申込用紙をご利用いただくか、メールで事務局までお申し込みください。

## <価格および代金のお支払い方法>

価格は1セット **3,000円**です。

お申し込み後、折り返し合計代金をご連絡いたしますので、ご確認の上、下記口座まで代金をお振込みください。納金確認後、宅配便にてお送りいたします。なお、お手数ですが送料は受取人様払いでお願いいたします。

郵便振替口座 記号番号：00130-3-539393

または

ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(ゼロイチキュウ)店 当座預金口座 539393

口座名：日本ウマ科学会(ニホンウマカカクカイ)

----- キリトリセン -----

## 申込用紙

ご希望のDVDと枚数	(1) 2009年(第22回学術集会) Dr. Brooks	眼科	( ) セット	
	(2) 2010年(第23回学術集会) Dr. Richardson	整形外科	( ) セット	
	(3) 2011年(第24回学術集会) Dr. LeBlanc	繁殖	( ) セット	
	(4) 2012年(第25回学術集会) Dr. Dyson	跛行診断	( ) セット	
	(5) 2013年(第26回学術集会) Dr. White	急性腹症	( ) セット	
	(6) 2014年(第27回学術集会) Dr. Scott	装蹄	( ) セット	
	(7) 2015年	Dr. Mama & Steffey	麻酔	( ) セット
	(8) 2016年(第29回学術集会) Dr. Ducharme	呼吸器	( ) セット	
	(9) 2017年(第30回学術集会) Dr. Hyde	歯科	( ) セット	
お名前				
ご送付先住所				
ご所属				
電話番号				
メールアドレス				

連絡先： 日本ウマ科学会事務局

FAX：0285-44-5676

e-mail： e-office@equinst.go.jp

住所：〒329-0412 栃木県下野市柴1400-4 JRA競走馬総合研究所

## 協賛団体名

団体名	〒	住所
日本中央競馬会	105-0003	東京都港区西新橋 1-1-1
地方競馬全国協会	106-8639	東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル

## 賛助会員名簿

(五十音順)

会員名	〒	住所
(株)アイベック	170-0002	東京都豊島区巢鴨 1-24-12 アーバンポイント巢鴨 4F
公益財団法人 軽種馬育成調教センター	057-0171	北海道浦河郡浦河町西舎 528
公益財団法人 競走馬理化学研究所	320-0851	栃木県宇都宮市鶴田町 1731-2
JRA システムサービス(株)	135-0034	東京都江東区永代 1-14-5 永代ダイヤビル 7F
JRA ファシリティーズ(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀 3-19-9 ジオ八丁堀
公益財団法人 ジャパン・スタッド ブック・インターナショナル	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 6F
公益財団法人 全国競馬・畜産振興会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 3F
公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 5F
ゾエティス・ジャパン(株)	151-0053	東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル 14 階
中央競馬馬主相互会	105-0004	東京都港区新橋 4-7-26 東洋海事ビル 3F
物産アニマルヘルス株式会社	541-0053	大阪府大阪市中央区本町二丁目 5-7 メットライフ本町スクエア 10F
一般社団法人 日本競走馬協会	106-0041	東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル
公益社団法人 日本軽種馬協会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 3F
一般財団法人 日本生物科学研究所	198-0024	東京都青梅市新町 9-2221-1
公益社団法人 日本装削蹄協会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 7F
一般財団法人 日本中央競馬会弘済会	105-0003	東京都港区西新橋 1-1-1
公益社団法人 日本馬事協会	104-0033	東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 7F
公益社団法人 日本馬術連盟	104-0033	東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 6F
一般財団法人 馬事畜産会館	104-0033	東京都中央区新川 2-6-16
文永堂出版(株)	113-0033	東京都文京区本郷 2-27-18

# Hippophile 投稿に関する基準

(2013年4月1日一部改定)

- ① 本誌の投稿は、Hippophile 投稿規程（以下「規程」という。）に基づくことを基本とする。
- ② この基準は、投稿者が投稿しやすいよう投稿分野ごとに細目を定めたものである。
- ③ 原稿を本誌の目的に沿ったものにするため、1～3名の審査員により審査を行い、事務局（(株)アイベック）を通じて投稿者と調整を行う。審査員の指摘を受けた投稿者は速やかに事務局に回答するものとする。その目的は、多種多様な本学会会員に対し、解りやすく美しい文章で、かつ投稿者の真意が正確に伝わる記事にすることにある。  
編集委員（長）および審査員は、掲載の可否にあたっては、内容が特に営利目的でないもの、あるいは偏った個人批判、地域批判、団体批判を含まないものであることに留意する。
- ④ 本誌は、図表のカラー化を取り入れていることから、良好なピントや色彩を求める。
- ⑤ 本誌は、各号のページ数を刷上り約40ページとするため、投稿ページ数に制限を設ける。ただし、やむを得ない場合は、投稿者と協議のうえ、編集委員長がページ数を決定する。
- ⑥ 図は、写真を含めて図と称し、番号を付け、タイトルと説明文を付記することとする。その大きさは縦6.0 cm × 横8.5 cm とするが、説明文のスペースの関係から図1枚につき縦約7 cm 取ることにする。ページ数の調整の関係で編集委員（長）の一任により図のサイズを決定することがある。
- ⑦ 投稿者は顔写真（カラー）と略歴（150字程度）を添付することとする。
- ⑧ 刷上り最大24字×42行×2段＝2,016字の字数が1ページに印刷可能であり、これを目安に投稿することとする。
- ⑨ 図1枚の占めるスペースの字数は約168字となる。
- ⑩ 表にはタイトルと説明文のほか、必要に応じて注釈・解説文を添付することとし、表の大きさは、ページ数を考慮し、審査員と編集委員（長）が協議のうえ決定する。
- ⑪ 投稿者に原稿料（1ページにつき3千円）を支払う。ただし、原則として研究論文や施設紹介には支払わない。原稿料は、刷上りのページ数により算出し、ページ半分に満たない部分は切捨てとする。ただし、5ページ相当の原稿料（1万5千円）を上限とする。
- ⑫ 投稿者は、原稿内容により、以下の各コーナーの分類について要望又は指定することができる。

## 総説：

【ウマの科学的分野における研究の総括と展望】

- ① 文献展望を主体とし、刷上りは図表を含めて10ページ以内程度とする。

## 科学論文・一般学術論文：

【ウマ科学に貢献する未発表・他の学術誌に未掲載の和文論文】

- ① オリジナリティーの高いもの。

- ② 科学論文は、研究目的、材料・方法、成績・結果、考察、纏めが適切に記述されている自然科学の論文とする。
- ③ 一般学術論文は、自然科学に準ずるが、馬の文化、経済学、芸術、歴史などの人文科学の論文とする。
- ④ 刷上りのページ数は図表を含めて10～12ページ以内程度とする。
- ⑤ 引用文献の書き方はJESの投稿規程に準ずる。本文中のナンバーリングは上付きとし、引用文献順に掲載する。但し、著者名の記載は1名あるいは2名までとし、3名以上の場合は代表者1名を記載し「その他、あるいは et al.」として記載する。

## 馬事往来：

【馬との関わりについての提言、レポート、エッセイなど】

- ① 馬の文化や科学の実態を会員が相互に理解しておく必要性のあるもの。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて3ページ程度とする。

## 馬事資料：

【馬に関連する資料の掲載】

- ① 日本の馬事資料として保存しておく必要性のある内容のものを掲載。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて3ページ程度とする。

## 特別記事：

【馬に関連する競技会やイベント、利用実態などの記事】

- ① 馬に関係する各種催し物や活動状況などを紹介。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて3ページ以内とする。

## 馬事施設紹介：

【馬の文化・科学に関わる施設の紹介】

- ① 日本の馬事文化、研究、教育、乗馬等に関わりのある施設などの紹介記事。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて3ページ以内とする。

## 学術集会記事：

【馬に関する学術集会における講演内容等の掲載】

- ① 本学会の学術集会等を主体に掲載。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて3ページ程度とする。

## 関連研究会記事、その他：

- ① 規程に準じて取り扱う。
- ② 刷上りのページ数は1～2ページとする。
- ③ いずれのコーナーにも該当しないものにあつては、編集委員長が新たにコーナーを設けることができる。

## 投稿原稿送付先

Hippophile 編集事務局宛に e-mail もしくは郵送でデータを送付のこと。（投稿された原稿は返却しませんので予めご了承ください。）

e-mail: hippo@ipecc-pub.co.jp

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-12

(株)アイベック内 Hippophile 編集事務局

## 編集後記

今年の正月は早々にして能登で大地震がありました。相当な被害状況で、今でも多くの方が避難所で生活をしています。2020年代に入って4年がたちますが、この年代は当初からあまり良いとはいえません。2020年、日本で新型コロナウイルスの感染者がはじめて発見されました。2022年、ロシアはウクライナに攻め込みました。そして2023年、パレスチナとイスラエルの紛争が再発されました。悪害は遠慮会釈なくやってきます。私たちはただ呆然とするしかないのでしょうか。

【馬事資料】は立川健治さんの日露競馬大会の連載最終回です。4回の連載で、ウラジオストクの日露競馬会の顛末が数々のエピソードとともに活写されました。

【特別インタビュー記事】は、本誌では珍しいインタビュー記事です。「UMARTs」展を企画された杉浦幸子さんのお話を永井富美子がまとめたものです。企画された展覧会は馬好きには大変楽しいものでした。

【研究報告】では山田一孝さんからシンチグラフィ実施時の放射線防御に関する報告をいただきました。シンチグラフィは体内に投与した放射線同位体をもとに画像診断を行う手法で、今後馬獣医療に導入されます。獣医療関係者の放射線防御のために不可欠な報告といえます。

【会員通信】として荒川由紀子さんにフランスで開催された「ルート ドゥ ポワソン」のレポートをいただきました。フランスでは重種馬が広範に飼われています。凱旋門でのチャグチャグ馬コの行列はさぞ人目をひいたものと思われま。

【書籍紹介】では東方ユーラシアの古代馬文化を論じた書籍を木村李花子さんに解説いただきました。本書は12人の筆者により最新の知見をもとに縦横に論じたものです。

(編集委員長 楠瀬 良)

---

### 入会申し込み方法

下記宛にお申し込み下さい。年会費は5,000円(国内)です。

日本ウマ科学会事務局

〒329-0412 栃木県下野市柴1400-4

JRA 競走馬総合研究所内

電話 0285-39-7398 FAX 0285-44-5676

E-mail : e-office@equinst.go.jp

---

## Hippophile, No. 96, 2024

2024年3月発行

<https://jses.jp>

編集委員長：楠瀬 良

発行者：青木 修

〒329-0412 栃木県下野市柴1400-4

JRA 競走馬総合研究所内

電話 0285-39-7398 FAX 0285-44-5676

郵便振替口座番号 00130-3-539393

または

ゆうちょ銀行(9900)〇一九(ゼロイチキユウ)店

当座預金口座 539393

口座名：日本ウマ科学会(ニホンウマカガクカイ)

印刷者：株式会社 アイベック

〒170-0002 豊島区巣鴨1-24-12

電話 03-5978-4067